恭孝年表 下

リ 5
6029
3

国立国会図書館
W5
6029
巻 3

国立国会図書館

佛出世日本書紀巻二十二 舒明天皇

舒明天皇元年九月己巳朔庚午百濟王義慈遣王子豊璋入質

舒明天皇十一年四月壬午朔甲午百濟王義慈薨

舒明天皇十二年十月己巳朔庚午高麗王大臣薨

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午百濟大殿災

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午高麗僧慧灌始任僧正

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午百濟僧勒観始任僧正

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是月於飛鳥岡傍起宮殿

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是月於田中造厩坂道

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是月於百濟川側建九重塔

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是月於大宮及諸寺衆僧請雨

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是月於南淵河上跪拜四方祈雨

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日雷大雨五日

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日遂雨五穀豊穣

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日天下大赦

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日高麗僧慧灌僧正卒

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日百濟僧勒観僧正卒

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日葬大臣於桃原墓

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以小墾田宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住飛鳥岡傍宮

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以田中宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住厩坂宮

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以厩坂宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住百濟大宮

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以百濟大宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住岡本宮

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以岡本宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住飛鳥板蓋宮

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以飛鳥板蓋宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住飛鳥淨御原宮

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以飛鳥淨御原宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住藤原宮

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以藤原宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住平城宮

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以平城宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住長岡宮

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以長岡宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住平安宮

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以平安宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住東京

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以東京宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住西京

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以西京宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住南京

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以南京宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住北京

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以北京宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住中京

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以中京宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住東京

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以東京宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住西京

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以西京宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住南京

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以南京宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住北京

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以北京宮殿燒亡之故

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日移住中京

舒明天皇十三年十月己巳朔庚午是日以中京宮殿燒亡之故

昭和十八年六月二日受 小田寿吉氏長男友太郎氏寄贈

札差
金弁
指

并至本代貸金向後貸出し令利下ケ仕法記
御出○利足い向後壹両ニ付ニ分の積ニ六ケ年ニ付ニ
借更ニ付ニ弁指已年ニ付ニ年の借金い壹ケ月五十両壹分
ニ付ニ借ニ付一ケ年三両宛(ヅヽ)ニ満方記　御出日九月廿六日ニ
年故て此雑事は家人共ニ一統指手向及国家ノ給ハ其
ヘ数千年本い所とおく花売の風に別て食住い向後第
ニ張強を見し色差し雑費ニ至る所指手向ニ如元
に到り物のけりニ実ニ見も日ニ薄く平生の嗜も無之如何
ニ旅も至ニ成ニ平生ニ至る身の分限をニ顧ハ之第ニ人
当時文武の蔵等ニ至る能力ニ指手向ニ如元如自
私と所属兼并子弟の教育も不親事ニ至ニ至ニ至
子孫ニ到りたていふ事ニ至ニ及ん愛ニ行ニ人得達
を生し孫ニ以前ニ第ニ見て義務ニ成ニ以て家名を出し
しニ統相ニ至ニ第ニ大吉ル年年も中毛已上の分ヘも美
大の御借ニ　御身并此義来元の分借金満方

利下ケ記　御身義上い別て人を用質ニ保約を第一字ニ
し惠して札差を正しく常ニ格式分限を余ヘ且臨時要用
等い平生ニ蔵ニ人身義ニ利子元年可申ニ至年ニ到り
今ハ一統ニ信ニ由ニ以て均ニ分ニ至ニ見ニ義ニ別ニ為ニ衣食住等
ニ以て御身を飾ニ第い猶も至ニ成ニ分ニ至ニ不義理ニ及ニ
ニ至て所ニ人も薄く不法の借金ニ仁の用金ニ忘れ所ヘ申付
ニ旅も至ニ成ニ至ニ以此等年限ニ分借金弁指ニ此義来元
一統ニ之ヘ又借ニ仕立ニ寿義理を以借ヘ義理を以て報
しニ至ニ至ニ国家ニ乗ニ仕ニ借更ニ仕立ニ之方国家ニ
及ニ之ニ所ニ又ニ義理ニ可尚ニ見ニ第い人ニ実ニ至ニ至
ニ至ニ所ニ至ニ御身を給し至ニ身をも先ニ義強ニ御身の
次年ニ以此等格別ニ以御身上い別ニ身持等ニ古ニ交
武の名ニ右御家ニ僅の義人抵朋友親戚ニ至ニ人身ニ保子
嫁をも教育ニ以て永く家名をも保ニ右者ニ叶ニ私義
を改ニ申ニ至ニ以上人物達ニ以等ニ至ニ於て別て者ニ至の

万石以上囲穀

此所は、いまこの為第ニ人ニ言語をて存ゼ此事ニ付ニて記 御出
○同十七日万石已上の面ニ領分ニ出年ニ付ニ出ニ
して囲穀て致ニ与ニ記 御出 ○高壹万石ニ付五十石の
割を以来成年ニ与ニ寛年ニ五ヶ年の間囲来ニ記 御出万石已下
ニても右の趣意ヲ以囲来仕候人度の者ハ我子の様子ニ
致ひ人ニ至てニ与ニ万石已下の者ハ記 御出と申義も書ニ
与ニ此ニ付ニて記 御出 ○同廿三日此旅本ニ記候
右用筆ニ此方持原一人撰義記 御出同十月二日
前嶋寅之助 小雲陸松井信濃守支配 宮恒真太郎 小雲陸松井信濃守支配 死罪
○宮之助ハ吉田平十郎と云浪人なりしが真太郎人吉井と偽前
鴻家へ養子となり此余数大勢ニ罪 ○同廿四日江戸大
川筋川ニ此事清中測繋地ニ掛 ○此手傳ハ阿部伊
勢守秘之御ニ与ニ立花左ニ解監記 御出ニ ○同十二月
十四日壹 御出此ニ筋人通し方此阿正同廿六日大坂
大火 ○南北町堀筋ニ此東南ニ処ニ此場代ニ至家ニ至家ニ至

大的射込場

○享和二年

紅毛入貢

半町屋多焼失 寛政 二年正月五日六ヶ所射込大的場
記 御出ニ付ニ与ニ記与ニ杉平蔵中ニ与ニ是此ニ申し渡
○梅町平川町三町目裏明地○鉄多ニ至家ニ明地○御茶之旅所
丁玉ヶ目明地○平込此門ニ小石川此ニ芝間大走りの内○市谷加
賀屋敷大湾明地の内○巴谷小湾明地の内○左ニ六ヶ所
明地の分ニ早来ニ記与大的射込我ニ場ニ与ニ此ニ合ニ一日
中ニ我ニ記ニ又享和二年四月廿七日虎此門外明地ニ早来
大的射込場并京込馬場出来 ○同廿一日女の衣数髪
道具ニ下ニ此の品て用ニ与ニ同二月ニ与 大女院御ニ付
明和停止同三月二日壹ニ至此ニ御人参府之ニ記妻子
ニ至て平ニ此ハ事ニ廣ニ御ニ記ニ与ニ同月阿蒙陀人
条上物 敷上 古大廣間御覧此ニ此ニ時服三十
記下ニ ○阿蒙陀唐山の御ニ七時ニ小事ニ記ニ商ニ通ニ
ニ此ハ足利将軍の代織田豊臣家の時繋生ニ至七五通
説玉一統ニ致セし年象長堀田ニ阿蒙陀ニ此ニ日本の

長崎奉行初

新七郎田家賀白倉如房者忌九ヶ所馬場動所須
川至水山也此所在之此田之本之論後所田以人所
年貢と成是より年々小町割まゝ元和の初に到り四
十町と定る天正十五年豊臣太閤治代の時也崎のうを詮
義をくし小諸老臣数人也崎の地に南蛮船を寄る
しゆ切支丹秘法を信し和仏仏閣を破布せし与其元
しりたしけるに法の到りしとて此人たちを逐し伴天
伴ふ船を追逐し家宅伴僧ちを無し法家を定之
豊臣小野宗を禁止是分豊臣家の料事とも成文
深元年初て七崎奉行を至ち津志摩ち廣教之是年日新の
代ちを至村山市東之家長五年出一統の時より日年と
廣教奉行より日八年小笠原一廣是に代り日十年七谷川
吉房家廣是に代り元和元年七谷川橋に是に代り
寛永三年水野河内守信是に代り日六年行中乗女
是に代り日十年首藤又左衛門ち祐今村伝四郎正長

葉人登宮

西人記 伝承古籍に行中に代り今村に江戸に在宅より日本
以人と成陽年に在勤也貞享四年山長勤ち記 伝承
此時分諸大夫に代ち村山市東に代り元和二年東頭平和記
伝承子孫を繼て節し知延宝四年に死有之所絶元文四年
に至りて言本作業記 伝承 ○阿蘭陀江戸人年上の事の初い
松浦氏の家本若原て毎年冬平戸を發し四三年正月堂
登り出船中上寛永十八年七崎に移してより日本をかけ捷使
与力同心通詞以下数十人若原にる時ゝ日家に同し寛文元年
より毎年正月十五日七崎を発し登 宮二月の末二月と云とり
寛永二年より是を阿蘭陀船の如一船と成東洞も百万
貫目の如六千万貫目に減し毎年江戸参上も五年目と云
▲慶和に明の古籍隆慶の比永保年中にあらる禄に小
船にて余程西葉程に積 渡り二文易也万暦宗興の比
天正等長中にあらる無乱を避て七崎に来り住せんと願ち
多し船数も多く渡本し九九の内薩摩の河久根器の

唐船来貢

二書

轉多豊浮の事内紀年五時平戸大村七時未の間こゝに
若干年を慶七年五年七時に之重通詞の詩人都市之
和六年の寛永六年の男重人南京流民の二年を来
寛永六年の後唐船七時濃一方に注来せしめ他の漢字
本意を禁せらる本船の定数千石艘の処寛永二年の
減して十艘に如る。列祖成蹟西山文集松栄記るを
りて曰　神祖嘗謂七若川茂慶曰曩時日本与明有
勘合蒙天文以来本絶ことなり今頃商議後古玉是明商
船五詩吏目周性如来于長崎茂慶相之間明室のなり
白之縁府　神祖使林臣書作也多正純茂慶蓮猶
遣之総督　陸子貞蒙吾國与明通信儀事及当時
皇朝治平嘉鮮本殿院戚臣秀安南交趾古城置之絶呂
宋西洋塞未諾玉莫不止斗籍宝明不宜以勘合蒙通信結
好陰異正純茂慶の名ることを七達之明を存用　神祖之
市章茂慶校二書于姓如我三総督而子貞猶疏数意

禁裡新造

不復書勘合亦不成然東京福建商船毎年于長崎至今
不絶云云周初の時勢今とは異なるを見る　○同年
十日法武恩法修復の上に向之如之年入亡多入義
法本年同六月十四日蒙合小雲請法師令向浮法
勘定吟味詩完みて一二五葉与同八月朔日二日
大風雨洪水同十月朔日姫尹様法誕生○法毎
平塚氏お雪方同二ヶ遊謚臨岸院及華上帝陵雲院○同十一
月二日三日京江戸其孫隆同廿二ヶ　今上帝
新成内裡に是幸○仙洞い同月廿六ヶ迁幸女院い十二
月四日迁御時に當今い大上皇○兼仁之仙洞い浮橋町
院之聖護院を何の皇后如しか法造営速手如しを鎮ひ
思しに法製の詩奇を筆来へ手せらる○主上遊慕周
不羨漢武臺旧章一是従新築本帆從百工忽告竣整駕自
東田拭目向城雖々々亦美哉両度意観雖四門総並寛
慈崔徒蒙集楼橋楼階蒙是共為遊録偉礼共祇細索委

傳奏 公家 公義 御成

佩群條令将第九列未嘗心既已足紀州感塩梅欣然歎思
節之夜落之義。仙洞 よのつくりみきえてる時し さの
んそとえてる大和ことの意ふ
同十二月二日琉球使登 城御礼同十五日 御暇被遣
営御能有之同日松平越中守殿 御前於御用掛領
○御用部屋へ被仰付久世丹後守柳生主膳正御作事奉行
被仰付候○京都町奉行池田筑後守御作事奉行へ被仰付主膳正
御勘定吟味役被仰付候大夫○大嘗会諸士共合時
於白書院被仰付同月江戸地震相止 寛政 三
年正月二日諸侯届諸侯出置候事同二月
十四日 御目見以上へ新規之御出之者又人者子ども
若年寄御書付同月数日大判金出候間下ケ被
仰出候大判被出候に小判金之儀下ケ候同十
五日先御公家衆年始 公儀御使之御能
御出年同四月六日於新構地追鳥狩同六月十

一日於吹上上覧所相撲 上覧同十八日横田任
月毛発馬場的場御覧 御射場同七月九日於御庭御用
開之節不浄不去加久等也十一月第○組頭年寄人数第六
中上段の能のある上様御組数等能竊吉小的御書宝御人御泊
之御組合の先年を不能之稀役封統として小林宣今
之振諸御所御毎間易小御御能之 御出之高田之のるの
振小写用小人仰能之義王られ奉行數ケ条之 御達て有之
○同八月六日以後東大風雨○於是小田原大磯箱根山出
水涌出撰大風雲出御場流家人多江戸大森大井川品川高崎
芸州藥研迦大浪浪人家多く被損○同七日於吹上御養
上雁の間諸藩の間役頭諸役人集まる 上覧同十五
御老中若年寄御家御老若衆番方式部書文庫の間御役
人其外御書方布衣以上の面々十五頭の月の頭
して應被一御礼被下之七方同九月数日正月五日松
千人浮并役本の大以名家松下御華御本年同

医学
館御
取立

同年東大風雨 并洪水 同月廿五日より
評定所迄罷出候処二十六日出勤 此年分此月御旗
本手傳 御普請被仰付 ニ當月 出勤仕 来ル[illegible]内
五百一萬両にて御借仕候 但御勘定奉行支配[illegible] 御普請方御勘定所[illegible] 同
十月十五日 當國 普請 在番 出役 御手當與
之 御本丸 御目付代 昭和二年 四月 医学館 医学館取立 〇医学館
[illegible] 御番衆代 [illegible] 医学[illegible]之[illegible]
[illegible] 御役 [illegible] 師範[illegible] 之[illegible]
教授[illegible] 之 教授 [illegible]
今年[illegible] 制[illegible]
[illegible] 教授[illegible] 此時[illegible] 医学[illegible]
[illegible] 今年[illegible] 学館 費用として [illegible] 年
[illegible] 此[illegible] 費用[illegible]
[illegible] 〇 医学館 [illegible] 御免[illegible] 人 [illegible]

此[illegible] 正 [illegible] 出し時 [illegible] 之徳を[illegible] 父之孝 学館を建
[illegible] 礼義を以[illegible] 之徳 [illegible]
[illegible] 業を[illegible] 教育 [illegible] 人[illegible] 用
[illegible] 文化三年 三月 [illegible]
[illegible] 学館 [illegible] 新[illegible] 小学館 [illegible]
学館 〇 医学館 [illegible] 小学館 [illegible]
[illegible] 医[illegible] 小学館 [illegible] 四十[illegible]
教育 [illegible] 四十[illegible] 自分 [illegible] 規則 [illegible]
[illegible] 医 [illegible] 一年 小[illegible] 学館 小[illegible]
[illegible] 教育 [illegible] 世 [illegible] 医[illegible] 五人
[illegible] 十五人 [illegible] 三十人 [illegible]
[illegible] 四人 [illegible] 七 [illegible]
[illegible] 医[illegible] 人 [illegible] 千 [illegible]
[illegible] 小[illegible] 人 [illegible] 三 [illegible]
教授[illegible] 小[illegible] 五人 [illegible] 年 [illegible] 三 [illegible]

伊藤家代々此殿代ちり一私今事大至将監命終年一ヶ月
最愛ふ子妻婦小国之所願之ヶ九ヶ二ヶ不幸陰相宝方
相屋国房ヶ此紀楽所の事奉ヶ此ヶ事ヶ
慶安実大相年甲寅ヶ此ヶ事ヶ
承応乙未相家名ヶ猪ヶ
ヶ此方姫ヶ事帯伊家の子ヶ
中移り住ヶ事ヶ浅中川西浅ヶ
浅ヶ兼記ヶ此代ヶ
代のヶ事ヶ
ぬ。〇同十三ヶ此ヶ
此ヶ此四人の私二人ヶ
方美年帯記ヶ
将軍家 浅ヶ

ヶ此代ヶ此殿代ちり一私今事大至将監命終年一ヶ月
最愛ふ子妻婦小国之所願之ヶ九ヶ二ヶ不幸陰相宝方
相屋国房ヶ此紀楽所の事奉ヶ此ヶ事ヶ
慶安実大相年甲寅ヶ此ヶ事ヶ
承応乙未相家名ヶ猪ヶ
ヶ此方姫ヶ事帯伊家の子ヶ
中移り住ヶ事ヶ浅中川西浅ヶ
浅ヶ兼記ヶ此代ヶ
代のヶ事ヶ
ぬ。〇同十三ヶ此ヶ
此ヶ此四人の私二人ヶ
方美年帯記ヶ
将軍家 浅ヶ

ヶ此代ヶ此殿代ちり一私今事大至将監命終年一ヶ月
最愛ふ子妻婦小国之所願之ヶ九ヶ二ヶ不幸陰相宝方
相屋国房ヶ此紀楽所の事奉ヶ此ヶ事ヶ
慶安実大相年甲寅ヶ此ヶ事ヶ
承応乙未相家名ヶ猪ヶ
ヶ此方姫ヶ事帯伊家の子ヶ
中移り住ヶ事ヶ浅中川西浅ヶ
浅ヶ兼記ヶ此代ヶ
代のヶ事ヶ
ぬ。〇同十三ヶ此ヶ
此ヶ此四人の私二人ヶ
方美年帯記ヶ
将軍家 浅ヶ

布衣已上ハ明和ハ海ニ於下日十六日布衣已下ハ諸人ハ小性組ハ
毒瓦之　上質明和ニ於下日ハ一日ハ本院ニ於大ハ毒小十人
小雪清の面ニ之ニ於和ニ於下　御目見ニ已下ハ美年寄瓦ハ且分
白銀を下ニ分是ニ毎年ニ於りしニ文化八年ニ於ニ之ニ於
○此月秋田國高原顔　松平三度改領名　山然已て湯滴瓦人
之ニ死　國中震動　火光　余國然日五月十六日　林子平
松平陸奥守家臣　林家給日居守　著述海國兵誤及三國通説の事ニ
依て獲居ニ　御年日六月十八日　亥刻　江戸光物西
南ニ於東小子瓦大さ豆の如し　三光國中を照す日七月
十三日　前君様ハ誕生○ハ蓋目　松平和泉守　乗完ハ蓋目
吉田右京大夫　孝広ハ母堂　平像氏　母万方　孝称　竹子代様七月十九
御臺様ハ書　青月初て　御表ハ御日十五日ハ出来ハ　此之初日
十二月二日　初生ハ殿ニ出　御人ハ寛永の出例を以逃ニ　御年
之ニ於日五年三月十日ハ繁盛日六月ハ男逝去　謚春順院殿　葬
増上寺　善陸者明和十日停止○同七月廿九日　番町辺大火

学問
出試

ニ於ニ　手ニ以下　勤仕之ハ　諸家人　新機之面ニ拝借
鑑記　御年○七月廿日　正の刻　座都　諸ニ橋ニ出火　森坂糀町　飯
田丁　葉丁　小石川ハ川田ニ於ニ　小川町ハ出て　雲新清ニ小石川ハ川　并
田町ハ川ニ於一橋中納言殿ハ　幸機已○同九月三日　寄合ハ　毒
瓦小雪清　並　熱領二男三男　屋の右　御目見ニ已下の右
同　所　新聖堂　学問所　初之学問ハ　試ニ至て○四出小学
を以て一科と云ハ　至　餘ハ五経歴史　并論策の作文人ニ学ふ
処の法深ニ於之前年ハ　試ニ本目を見ニ出ハ一科ニ
もつ之ニ於ニ本目本上ていハ　如の所味ニ於ニ須　御所味ニ之
まつしく　試ニて也ハ　慶賀ニ於ニ　毎ハ試の日限毎日の定日ニ至
朝五時寄ハ目手出席ハ　抵抗田根　御事及ハ　御ニ出ハ　鼓の
出目何出の因何の章を大学ニ出して　御事ニ於　論策ニ於
ニ日ニ人ニ答ニ　然之ニ至ニ出ニ及ハ作文ニ　誤の事を以て限と
なしニ　策　鳩を林ニ至る　清日ハ儒者ニ至ニ出を之ニ
解義　よろしき　まし者を三條ニ出ニ　上科ハ最勝の者ハ

和学講談所

時結之新長住い銀十五枚中科い日所出之日所銀平枚
下科い日所出之義ハ不可出之　御目見ヲ下の者ハ銀を
新下上中下の科新屋住と同しく下者ハ五之者ハ新下
四年目の表一家今ヲ見ヲ有り　○同廿一日晩上御座
小於て御前以上以下御詠人ヲ寄合御書院小雪隣
御人御の面々ヲ得　上筵　但御書院小雪隣面之
大的上筵御内御用ヲ新下

寛政　五年二月中山前中納言　定親　正親町前大納
言公明　下向　○今上帝御実父閑院典仁親王ハ太上天皇の
尊号ヒ之事　嚴重の与ハ御下右両仁を在之御与越御擧
至之日三月七日尊号御内意一件元年ニ御面ニ至年中
山ハ閑門正親町ハ通塞日十日御下ニ至し　○同十二日松
平越中守ニ至ル下田相見御賀辺巡見之　御年　寛政
五年五月十四日敷御ニ君御誕生　嫡孫公　同七月和学
講談所新建　○博物授保己一ハ武見ハ至郎保己村
也生皇暦七五年八月江戸表へ拝ニ二秋原宗国ハ成ニ御

和出学問致し之後遊ニ舞を致し天明三年御三月推校ニ御
寄之後五年和学講談所并文庫表之後ニ年表ハ小家所ニ
与妃の内ニ之博物之通拝借之　御年御本社事所御板御
中御同七年年九月六日和学永続の為御手当ニ給町三町目
小伝馬町三丁目亀井町横町丁寺丁目川通り ニ下上納地一ケ所
新下至地面之義ハ町年寄方ニ之ニ所り其上一ケ年元之令五十両
ヲ御事所与ニ御ニ并松平伊豆守度御出ニ年を以ニ御御
与社ニ有り其山下ニ御ニ中御同ニ和学講談所之義ハ本林大学
政事所ニ御和学御用ニ之義ハ本郷ニ桃園根岸ニ至ニ御
御御御学和之ニ年ニ六月ニ惣録ニ本郷文化弐丑年正月十六日
素ハ小ニ丁拝借地ニ返納素ハ小ニ町小林稽太夫ニ至ニ八百四十
坪余拝借之通り之　御ニ与ニ本社ニ有り水戸ニ御ニ中御
文化二申年四月七日和学御用向年年ニ御ニ本郷ニ校正ニ上
御ニ年御ニ帰之ニ　御目見之　御年ニ与ニ御徹的ニ当ニ
井大路守之ニ　御御目見仕文政四巳年正月上ニ仕

日二月六日雷無樣候由也 五月十五日 [illegible]
[illegible]
七井大[illegible]
八月廿三日[illegible]
[illegible]
十八日晴上[illegible] ○魯西亞國[illegible]
[illegible]
[illegible]
三日[illegible]
[illegible]
[illegible]
○今年五月下旬ゟ九月上旬ニ大火 ○[illegible]
[illegible]
山王永田[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
三月五日[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
二月十日[illegible]
八年三月廿三日[illegible]
十二月遊蓮瑞堂院[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
三月廿八日遊蓮[illegible]
[illegible]
十年十月十七日[illegible]

九年四月本署遊謚樓上院及葬場雲院○同十二
月二十日隨球傳參詣 寛政 九年七月二十日法戸
大雷法而後同九月十二日法用金法書等○延享
三寅年本年以來已年五十年余遊之金銀也入數多
之故行之元和人之本數の上の借金貸少之為之上本
許之不及之之事是之之事勅許不申年自今 法藏人
作料 也許の事吟味の上名上下申之也買之事之諸藏人作料
年分借貸本同數の事故作出之○同十二月十八日改曆
宣下の事故作出○宣曆甲辰曆差儀之事本年
年分新曆頒行○本朝改曆流布の順三大曆儀風曆
大衍曆○天平宣字比用之宣明曆○此曆貞觀の比より
天祿四年中ニ八百余用之貞享曆○貞享元年改曆宣曆曆
○宣曆四年改曆結縁略○甲戌の補曆之實此曆○九年丁巳改
曆之 寛政 十年二月晦日豊三郎君生○法母水理正懋女
故家方同年七月廿日遊謚良光院及葬場雲院○同三月

廿二日今度聖堂法事法改 聖堂の事ハ殿下其表 後略ノ上ニ於テ家ニ於テ 同
五月朔日於泉川海上鰾魚ニ為 長九尺一寸 三寸大余 同七月朔日
京都大佛殿及本尊雷火燒元同八月五日拾姫君生
○法母朝比奈舍人能喜女於利尾方寛政十二年三月九日
卒謚超樓院及葬御遍院○同十二年七月廿四日遊謚中孫院
及葬淺雲院○同九日本下澄路寺 御中宮守城之 御方五千石 尚
年四月免御前の御旅中不行始々同下隱居故
御身○家督嫡子定大之人賜上屋家廳布帛之御下法名上
廣尾屋家ニ下ニ段法名ニ 御身之○同十二月五日五
百姫君生 法母水理懋女故家方同十二年壬 四月三日遊謚堂光院及葬淺雲院 寛政 十三年
四月廿日 大猷院殿五十四法忌於日光山御
法事ニ至之同壬巳月四日山女姫君生○法母梶久之
繼修女故之也方五月十日 御老稼法者八月五日法忌也法
若御享和元年三月十一日山王法事系 帰御之年長田安
太夫督殿錄入法之事同二年三月十一日法嫁之同三年

六度十八日姫路ヘ帰城ス 文化二年二月十三日
姫路巡視ノ為ス発駕ス 同九年十月十四日姫路ヘ帰城ス
翌四十年十月十九日姫路ヘ帰城ス 同十一年十月廿四日姫路ヘ帰城ス
同十二年十月九日姫路ヘ帰城ス 同十三年十月廿八日姫路ヘ帰城ス
文政十年十月十五日姫路ヘ帰城ス 同十二年六月廿九日姫路ヘ帰城ス
同月廿日姫路ヘ帰城ス 同十二年十月十六日申剋亡父慶趾公
四十七回忌ニ付菩提寺書写山圓教寺ヘ参詣ス 同十三年四月十九日
朝廷ヨリ従三位ニ叙セラル 同十四年四月廿日姫路ヘ帰城ス
十四回忌ニ付菩提寺書写山圓教寺ヘ参詣ス 同六月廿日 有徳院殿五
十回忌ニ付菩提寺書写山圓教寺ヘ参詣ス 同八月廿九日孝
義録五十両ヲ下賜セラル 同十五年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同月廿九日孝義録ヲ下賜セラル 同十一月廿日姫路ヘ帰城ス
同十二年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同十三年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同十四年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同十五年正月廿日姫路ヘ帰城ス
弘化元年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同二年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同三年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同四年正月廿日姫路ヘ帰城ス
嘉永元年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同二年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同三年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同四年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同五年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同六年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同七年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同八年正月廿日姫路ヘ帰城ス
安政元年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同二年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同三年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同四年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同五年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同六年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同七年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同八年正月廿日姫路ヘ帰城ス
万延元年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同二年正月廿日姫路ヘ帰城ス
文久元年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同二年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同三年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同四年正月廿日姫路ヘ帰城ス
元治元年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同二年正月廿日姫路ヘ帰城ス
慶応元年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同二年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同三年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同四年正月廿日姫路ヘ帰城ス
明治元年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同二年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同三年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同四年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同五年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同六年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同七年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同八年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同九年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同十年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同十一年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同十二年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同十三年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同十四年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同十五年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同十六年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同十七年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同十八年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同十九年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同二十年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同二十一年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同二十二年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同二十三年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同二十四年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同二十五年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同二十六年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同二十七年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同二十八年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同二十九年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同三十年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同三十一年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同三十二年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同三十三年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同三十四年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同三十五年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同三十六年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同三十七年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同三十八年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同三十九年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同四十年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同四十一年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同四十二年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同四十三年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同四十四年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同四十五年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同四十六年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同四十七年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同四十八年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同四十九年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同五十年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同五十一年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同五十二年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同五十三年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同五十四年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同五十五年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同五十六年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同五十七年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同五十八年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同五十九年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同六十年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同六十一年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同六十二年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同六十三年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同六十四年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同六十五年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同六十六年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同六十七年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同六十八年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同六十九年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同七十年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同七十一年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同七十二年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同七十三年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同七十四年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同七十五年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同七十六年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同七十七年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同七十八年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同七十九年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同八十年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同八十一年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同八十二年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同八十三年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同八十四年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同八十五年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同八十六年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同八十七年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同八十八年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同八十九年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同九十年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同九十一年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同九十二年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同九十三年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同九十四年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同九十五年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同九十六年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同九十七年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同九十八年正月廿日姫路ヘ帰城ス
同九十九年正月廿日姫路ヘ帰城ス 同百年正月廿日姫路ヘ帰城ス

考を天保六年乙未七月廿日条に載せ
玄白存命なれば文化元年甲子は
廿六歳の筈なるに誤なり
○魯西亜船入津 文化 元年 甲子 二月廿
魯西亜船一艘肥前長崎へ入津
中略 魯西亜船入津の事 江戸へ聞え
同小文化元年九月六日条に
中略 魯西亜人より通信
信牌 中略 魯西亜船入津の事
て評議 中略 ○同五年の條に
称一国書 中略 書翰 中略
て江戸へ 国書 中略
御用 中略 ○巻中の図を
考を天保六年乙未七月廿日条に載せ
玄白存命なれば文化元年甲子は
廿六歳の筈なるに誤なり
○魯西亜船入津 文化 元年 甲子 二月廿
魯西亜船一艘肥前長崎へ入津
中略 魯西亜船入津の事 江戸へ聞え
同小文化元年九月六日条に
中略 魯西亜人より通信
信牌 中略 魯西亜船入津の事
て評議 中略 ○同五年の條に
称一国書 中略 書翰 中略
て江戸へ 国書 中略
御用 中略 ○巻中の図を

ありといふ説等 中略 ○同年
玄白存命なれば文化元年甲子は
廿六歳の筈なるに誤なり
○魯西亜船入津 文化 元年 甲子 二月廿
魯西亜船一艘肥前長崎へ入津
中略 魯西亜船入津の事 江戸へ聞え
同小文化元年九月六日条に
中略 魯西亜人より通信
信牌 中略 魯西亜船入津の事
て評議 中略 ○同五年の條に
称一国書 中略 書翰 中略
て江戸へ 国書 中略
御用 中略 ○巻中の図を

ありといふ説等 中略 ○同年
玄白存命なれば文化元年甲子は
廿六歳の筈なるに誤なり
○魯西亜船入津 文化 元年 甲子 二月廿
魯西亜船一艘肥前長崎へ入津
中略 魯西亜船入津の事 江戸へ聞え
同小文化元年九月六日条に
中略 魯西亜人より通信
信牌 中略 魯西亜船入津の事
て評議 中略 ○同五年の條に
称一国書 中略 書翰 中略
て江戸へ 国書 中略
御用 中略 ○巻中の図を

ありといふ説等 中略 ○同年
玄白存命なれば文化元年甲子は
廿六歳の筈なるに誤なり
○魯西亜船入津 文化 元年 甲子 二月廿
魯西亜船一艘肥前長崎へ入津
中略 魯西亜船入津の事 江戸へ聞え
同小文化元年九月六日条に
中略 魯西亜人より通信
信牌 中略 魯西亜船入津の事
て評議 中略 ○同五年の條に
称一国書 中略 書翰 中略
て江戸へ 国書 中略
御用 中略 ○巻中の図を

海上の経一千里許西北の方に当り東の地まで四千余里ともいふ○
土地にて通信通商を請ひし事有且いふ所松前
迄て猶去りし信牌の事を受取て帰国の際
漂流人○環海異聞に云、寛政五年十一月廿七日仙台
の若宮丸十六人乗組にて運送の際を勤め石巻港を
出帆し同月廿九日の海上にして逆風に逢ひ洋中に漂ふ
事数月翌六年五月十日極北の彼方オンデレイツケといふ処
に漂着す其所は北アメリカ洲に係るつき諸島の一つにてヲロシヤ
ヤ国の属島なり人の極寒を凌ぐ内七年四月初旬ヲロシヤ
本国四排の使を以て六月中旬オホツカと云港に着
此所にて是はヲロシヤより此東北の方に有る諸島にて彼は亜細
亜洲に係るとも云り是より我国に出る同年の秋より翌年
秋まで此所に在て逗留して従十五人左右に一二番に分れ
商都に向けて陸行する事凡四百余里ばかりにてイルコトツカ
と云ふ処に着く此処も亜細亜洲に係る所なり此地を以て

極寒を凌ぎて留る事八年之亨和二年二月王命ありて亨
和二年の紙数里ばかりてヲロシヤの旧都ムスコビヤに至れ
り此所北極出地五十五度二十五分と云又之を云て至四月
の末帝都ペートルブルカの都下に至る此所北極出地五十九度五十分の地なり
此処にて宮殿として数日逗留旅宿を賜ひ其後一五
月十六日国王謁見自勅して帰国を問ふ際皆帰国の大変儀申在
申太十の日人ば帰るを望み鍛り九人は此地に留る云々
いふ者遂に病死ゆえ是年御国に送り通商の事を議して
国使レサノツトと云ものを使に仕てる船に乗り航海せしむ際
客四人をも護送せし六月十六日本国の属港カナスタヤと云
所より開帆してテ子ルカ国に船を泊め事を尽しイン
ゲリス国の一港に滞留再立たヨウロッパ洲に係るとき
発してカナアリヤをへ、是はアメリカ洲に係る五六日にて船を
留め彼より赤道直下を経過して南アメリカ西伯西見来偏
は十一月十日とて南アメリカの内エガリナと云ふ港に船を泊む

魯西亜使節入津

十二月末ニ合比此如也船ハ至三月比雪降寒気絶し是ハ北ヨ
右船極南ニ至る南方ハ北極下ニ近く極下ニ
至ルといへとも寒暑の候ハ分明ならすと文化甲子二月大洲
を過り針路を西ニとりヤルゲイイサ游アメリカ西海中ニ渡り
船湯之亭ニ船ヲ寄四月の末船舶を発し後船ニ到りて
再東ニ至て赤道下の海上を過り四十丈ヵ又廿三八イツケを歴て
すハナヨロヒヤ別東北の辺境カミシヤツカと云処ニ着岸
船ニ舟来ニ至知カムシカの地之此処ニ滞留数日ニ而秋ニ
を発し船路を東ニ取て千島蝦夷地の沖より南洋ニ走り
至九月ニ至り紀州の東ニ至て崎陽海ニ入るゝ長崎ニ着
船を発帆を落るの由ニて文化元子年九月長
崎へ着岸ニて魯国ハ二ケ年目ハ十六ケ月ニ到り○
を送来るの由を通詞し信牌をもして長崎へ遣わさる
をなし渡り此時在長崎の奉行肥田豊後守
成此由を急き達しハ依而目付遠山金四郎

景晋を下されて通信通商ハ許されさる旨を論書の趣を
申渡させ帰帆せしむへしと下されけれハ 文化二年
三月日魯西亜の使レサノツトを館舎にめし入たり○館舎
ハ是より先梅崎ニ新館を設て市人の家ニ命して
屋風ニ作て飾る長崎奉行肥田豊後守二月廿日江戸を
出立有しか豊後ハ四月の前七日ニ着し又三月六日
七日使者ニ面会せしか行所へ渡し通詞の使者コヨルと
云唐人両人并エカヒタ之船師之医師一人ハ外国人者一人在之
通詞も附へ行て不慕を張諾しめ誠者ニ面会也之より
申渡されける○奉行所にて使者ニ面会有へき景晋書翰
江戸の住蘭學とも云 不残申渡す年杉事
る旨を通信通商ハ許し難き趣を一通
申渡し国書を下し難きを申渡し杉事の
地ハ唐蘭ニ申渡知ニ非ず此上ハ子ニ到り
到りし漂流人を受取る記又船中之物ハ

十一月十七日使官人始詣官の者二十人上陸して主知に住
居と云新老曰私とも病を以て是を許さるゝ事に仁和
り又慶命を遣へ候に某せんとする知れとして神の譲の濱
辺に方面間の行馬を始たれ宣いこと也に上りて病を
書ふへしと命ず又数月の後諸に来る船久家海上に
来し陸理を加へ来るあり海水もれてやゝ船底に入る然い
くゝ許さるゝ陸理せんと衆議まちゝ之新老曰慶命
をなりて上陸を許さるゝ事に彼船張水船と
如し私ゝ彼に見新しにまるゝ卑俗の漂流
せらるゝ事あれハ上陸せしむ況や彼ハ家里ゝ通信
の使としてまゐる者にや後日はまゐ船之出船あらハ
某を人ゝ主君にあらんとて吏をして主船を見
せしむるに彼の中に遠たまりしは始之その間の
豪家の列若の親数多ある家に稱しあらし然
間者の思議を悪く船なりこと親に納めしむ此事

多き以前に言上せしかは数時特理侍事大輔朝臣様
に陳ゝ事に無しての事ハ此事間の事行ハ所ありたしと
て主翠桂中繆せき事を賞せらる又鄭湯美国船
出帆の時ハ石火矢を放て去る魯西亜始之也今ニ来照鏡有
を以て慶安兵器を持ふせしむ伝之事行ハ出帆の時石火矢
を放つるを如き事ハ此時に当て阿蘭陀魯西亜
に先を遣る阿帆を合すらく今年ハ在て石火矢を放す
を禁ぬと阿蘭陀云阿帆等を放つるハ船を連ふやら
ん為のこゝにあらず後船の船を放ふ也一年に発して去
しに洋中にして他船の為に破らる等其の命に係をハ
数て命令を辞さんとして阿帆に当て船を放て去る
鹿鐵して云阿蘭陀船に計の如し魯西亜等を見へし
こゝ時事行彼ハ再に放つるを止意のあるゝあらハ
新老海賊して言語にして レサノワト有司に報て
申候阿蘭陀ハ家屬にして卑俗の国なり前も一敬国も

牛町
出火
類焼

○去ル二年此頃此節卑賤の町人共博奕へ入込候ニ付
評定所ニ而上方より文ハ此間捕ニ相成候由
中船所雲州様屋敷年人召取ニ相成候者へ宜敷元月
割ニ而…重…

文化 三年二月十日 虎千代君生 ○此母…方五年
二月朔日 …生 同六年二月十八日山王へ…宮参
同十二月十七日紀伊殿へ…子七年十月…遊…修…
院…葬送 ○同三月朔日…姫君生 ○此母…方
…女…英女同月…遊…
…院…葬送…院 ○同四日江戸大火 ○芝…
同…江戸…万石以上…六十二…万石以下
三百…八十…町家十…九千…
…町家百十万…寺院…千…社八社
非人小屋…八十…焼…三里…十町…
死人…十人…十七…十…○…

…
…
…
…
…
…
…
…
…
…
○…
…
…
…
…
…○…

琉球人登城

家日人別改ニ付書上ル事
但死去の者並病気引込届出ル分ハ
法雲和尚ニ而ハ無之候ニ付
大工喜平衛相頼候ニ付
油屋五郎右衛門ニ而ハ無之候ニ付
書上の通ニ候
一、同六日松平薩摩守
家来 琉球人江参ル
伝奏屋敷ニ而
七月ニ至候ニ付
一、同十月朔日
琉球人登
城ニ付
右大名家来の間ニ而
琉人ニ而ハ無之候ニ付
一、同七日琉球人登
城ニ付
一、同十一日琉球人登
城ニ付
一、同十二日琉球人登
城ニ付
一、同十三日琉球人登
城ニ付
一、同十四日琉球人登
城ニ付
一、同十五日琉球人登
城ニ付
一、同十六日琉球人登
城ニ付
一、同十七日琉球人登
城ニ付
一、同十八日琉球人登
城ニ付
一、同十九日琉球人登
城ニ付
一、同廿日琉球人登
城ニ付
一、同廿一日琉球人登
城ニ付
一、同廿二日琉球人登
城ニ付
一、同廿三日琉球人登
城ニ付
一、同廿四日琉球人登
城ニ付
一、同廿五日琉球人登
城ニ付
一、同廿六日琉球人登
城ニ付
一、同廿七日琉球人登
城ニ付
一、同廿八日琉球人登
城ニ付
一、同廿九日琉球人登
城ニ付
一、同晦日琉球人登
城ニ付
一、同十一月朔日琉球人登
城ニ付
一、同二日琉球人登
城ニ付
一、同三日琉球人登
城ニ付
一、同四日琉球人登
城ニ付
一、同五日琉球人登
城ニ付
一、同六日琉球人登
城ニ付
一、同七日琉球人登
城ニ付
一、同八日琉球人登
城ニ付
一、同九日琉球人登
城ニ付
一、同十日琉球人登
城ニ付
一、同十一日琉球人登
城ニ付
一、同十二日琉球人登
城ニ付
一、同十三日琉球人登
城ニ付
一、同十四日琉球人登
城ニ付
一、同十五日琉球人登
城ニ付
一、同十六日琉球人登
城ニ付
一、同十七日琉球人登
城ニ付
一、同十八日琉球人登
城ニ付
一、同十九日琉球人登
城ニ付
一、同廿日琉球人登
城ニ付
一、同廿一日琉球人登
城ニ付
一、同廿二日琉球人登
城ニ付
一、同廿三日琉球人登
城ニ付
一、同廿四日琉球人登
城ニ付
一、同廿五日琉球人登
城ニ付
一、同廿六日琉球人登
城ニ付
一、同廿七日琉球人登
城ニ付
一、同廿八日琉球人登
城ニ付
一、同廿九日琉球人登
城ニ付
一、同晦日琉球人登
城ニ付
一、同十二月朔日琉球人登
城ニ付
一、同二日琉球人登
城ニ付
一、同三日琉球人登
城ニ付
一、同四日琉球人登
城ニ付
一、同五日琉球人登
城ニ付
一、同六日琉球人登
城ニ付
一、同七日琉球人登
城ニ付
一、同八日琉球人登
城ニ付
一、同九日琉球人登
城ニ付
一、同十日琉球人登
城ニ付
一、同十一日琉球人登
城ニ付
一、同十二日琉球人登
城ニ付
一、同十三日琉球人登
城ニ付
一、同十四日琉球人登
城ニ付
一、同十五日琉球人登
城ニ付
一、同十六日琉球人登
城ニ付
一、同十七日琉球人登
城ニ付
一、同十八日琉球人登
城ニ付
一、同十九日琉球人登
城ニ付
一、同廿日琉球人登
城ニ付
一、同廿一日琉球人登
城ニ付
一、同廿二日琉球人登
城ニ付
一、同廿三日琉球人登
城ニ付
一、同廿四日琉球人登
城ニ付
一、同廿五日琉球人登
城ニ付
一、同廿六日琉球人登
城ニ付
一、同廿七日琉球人登
城ニ付
一、同廿八日琉球人登
城ニ付
一、同廿九日琉球人登
城ニ付
一、同晦日琉球人登
城ニ付

新石上 ○同年七月朱七日小田原陸上陸東の
内九千石を編此時南部津軽を当場を分ける事
於ハ本堀書地津軽ハ弱堀書地を当場也 ○同六月
五日津軽越中当ハ右代那須與一ト於津白出院
弱都巻物五銀帯拾新下右ハ堀書地異国船
来岩の後ニ付在所へ再越訴ヲ申付 [illegible]与左の事
こゝ依て此時拝領物記 御付此席 御付ニ付
御目見ニ新 御付一ニ入 上意ニ与ハ老中列座
記 御付之同六日右同断ニ付堀田摂津当為見分
記書之与於 御前ニ 御付此目付奉山金四郎此
使番小堂横左へ村上大学同断ニ付御地へ遣
与記 御付同十日南四月十三日蝦夷ニ三百里
祝小の方東ニ異堀書地ト アトロフ島の内ナイ
ホとゝ申処へ普西亜船沙艘ニ来岩上陸致し蝦夷
を掛掛番屋花之焼拂同廿九日同島の内

普西亜船乱津

蝦夷ニ来り本船の者共を捕て舎到シヤナトゝ申処へ大船
沙艘岩島上陸致し大筒等を打掛ニ付蝦夷の内
の者共お防き五六人ハ被打斃し深手為負ニも至ニ処
ニ入浦手へお見り火を掛焼拂ニ付防蝦一同
シヤナを引退きニ由蝦夷ニ来ル南部津軽の沖合ニも怪家
船お見へ同十九日蝦夷ニ来ル迎の沖ニも家舎ニ処無
祝同所より弱の方アサシ論と申処の沖へ走通り
帆船も来見ニ右ニ和別ニ至ニ候ニ於世上御覧
風雲も至ニ候ニ付再出向ニ候ニも里鐵度此速
て申与ハ同番所を申ハ平和の趣ハ大学船ニ達
之同廿八日先達る普西亜人大堀東地鴻之ニて
御所へ至ニ行ニ事人先を小船ニ家今度お降
大意ハ通商之事一向ニ就ニ之の事ニ至ニ大事人
先中ニ就ニて いくまて右横三四百石積位の船和艘

駐英
露西

駐英
露西

通信
通商

強たなるに對して内い諸郎の家乱をもたらくにして常
に偶ずおそれを遂に言中を伸して敢如き者備其國上
下和合の事に偶せんるゝ親きう中の親るゝ如へ是知し
あらう古人所謂瞞玉の患の敢なるへけれは姫夷カラフトの地
又能治して通商を入濫敢なるへ而に此謂ゝ古通ゝ人も中とに
又敢事を事議せる所以如へしとなり猶玉論は業人ケ
レフルなる者敢事のこすを議せしまあるを大雄なる者
言事和之事の敢諸出せし儀論あり言事和之事は此事証
らん七年前あり國事を言ふ人とこそ云へり○江戸田あり
て此法し人を對せしは是を諸言るの和偶すなし
是を文所すこと思ふに六月上旬名に事就法行法輕
より注を至しかは當四月十二日魯西亜新知聘東姫夷
地エトロフ嶋の内ナイホと云知事事君を陸し至知を記
嶋し業人三人を擬捕 [illegible] 同亦九日同所
ニヤナ會所へ押寄○東姫夷地は此時已に幕と如しかは

參政 姫夷 巡密

事ヲ法輕事情の人數ニヤナの會所にハ諸人も説合ありしあり○
火砲を敢て攻撃事前敢法輕而家の守筆に海家に
人數到る人平元ホミを
ありしなれば知人數無ならば も火砲を敢之是を防く視陰に
到り防きかくくやすらん三郎遁去ば○親陰にみひて
ナヨロト云山ノ手より魯西亜大局を敢つ云ふに如しなれ不叶して
ノナシリノ方ツルヘヲ山へ一日に退きし由なれと實は相言に驚
き狼狽して遁去しとあり○魯西亜人業事到に少へ
を敢ち無恙を奏ひ去ぬと云ふ或は諸地在諸の
人こより親族知己を頼ぶとの説を
以て頼に云罵る此時に當て伊達佐作而家
に乗に松前の事情を命せらるゝ二十余年國の
諸侯海岸事議のすを以 作公同六月六日
參政 姫田 掃使事 正敦 親信を召て 姫夷巡
密を命せらるゝ大目付中川飛澤事大英
法目付吉山金四郎京晋法使事小草猿本

西宮村上大学之義雄等是を副らるかりしかい
江戸の町々雑活を業とせるい家毎に毒具を
きえ古名鬻く家を取毎に陣の様を見たり
是等を見るに世の中何となく物さいかなきるを
頼ならぬも安からぬ人地まるも或い姫夷の辺境にハ
有新津種の兵魯西亜人と戦を揃し来る稽古
を望せば或い夷狄の兵船数百艘佐弁ハ既渡
口を塞ぎ実ハ此時に当てアメリカ船一艘も参る事ハ為帆すと
（沖合を通りしもすロシヤの軍船なりとてたちまさきしこ）
異相の運漕を遮りたるハ松前に一孤して援
なく事新羽太ハ為帰して病を生し人事を
弁せば或い虜と如しとも云或い松前の家老
下国何某ハ魯西亜と和縁の国を始ひ妻娘
を率て渡玉に出奔し手引して撃しむ
とも云ハ此ハ行橋ハ川田の古松風なくして
新氷川明神の本社造営年あらさ家に最たり

蝶
白虹
琴星

又有橋某戦の号蛟蝶群飛ぶ（蝶虎大虎の時ハ多き三浦の乱起ると云）又
水戸領にて白虹を貫く又初昏西南に琴星出る
月を越て消せ日八月十九日深川富ケ景八幡宮の
祭礼徳和（見物）群集し永代橋落て溺死千五百余人
に及ぶ是等の事ハ始きしかいんなきハ是を聞ひ
て劇話とは人有ハ額を蹙て云魯西亜累世之所之
国を合ひ後代にして三屋玉家小境に隣る寛政
四年家国際流の者を送りて姫夷の地子モロといふ
ふ知ゝ事ハ是魯西亜家国に有る姫之因ふに彼
玉際流人を送るとなるハ紅毛人に託して可之死
るを求て不通の国に来る者ハ必有をへし既
に文化元年再ぶ渡に来舶し絶ゑ通信通
商を請ふに実に是を請ふに既に家国を絶
なりしかこれ許さるをざるを右として姫夷
の辺境東西に題せ之所一新の事に死せ

根原を知るべし諸氏より吳狄敵迅境を侵せも
の數十度史の中にも弘安四年の寇患ると云しき
い故し元繼通信にて寄初て太宰府に來り
しい文永五年之後諸子列ならて元十四年を
經て衛を積ると云うて之間天變地妖を示し
る年をかさね強度の報ゆ小象時宗に測
の卓量をて用ひ其を諸し愛を省き力を防御
に用ひて兵を始る數年寇來るを待て
兆を戰ふ兆を志しく終積せ甚にして伊勢
石清水の神威に當て元寇十万一時に海底
に沈を奉らくして患を除くに至る深く今を
思るに至るに似て士民の強弱知量
かと須神威も右必敗之難し諸氏の祀を
海城と云ふ謂家國に稱より江府素より
海岸の地水路万里に近しぬ迄い油斷せ

ゆゑ其なと口あるに紀せいひ強きもて行しかた所に
にて其蓋の難謀いきうまてし諸地の嗚喉訶乃等由を
行到る所に解らり又武家へハ六月十五日亦八日出
身もて巻説の志なるを云ふ事○所て堆夷地にハ魯西
亜人ヱトロフ島を乱婦しロウクカト云処へ引元を処より松前
の内西の方リイシクと云処へ來り出私万事処所に商私一艘
を焼撃し給る私一艘を奪ひ其年カラフトにて捕へたる
蠻人四人を其私に至ル七年弱を持ふしめて其私を返
川蠻人に米銀の官舎に到り其年弱を出し且其いひ舎の
たる趣を申し一句に通商を請ふ事しけるし許さるとさる
に於ては來年大事を率て東西二湯に押寄く並の私志
ぬさんと云かりしかハ同五年の正月出使者小事狀を以て西容
村上監物義雄出に性祖山思侍中に景風西の出事院者
年月日七日を信を請て伊達會津の人數を率て堆
夷へ赴て小事村上ハ米銀松前に留り山思ハ會津の

人数を指揮して西地カラフト海に到り集同ハ伊達の
人数を指揮して東地アトロフ海にあるもむき魯西亜船来
を請受ケ掛見と名称地に海を渡るの処三年来る
須西土手を空くして三年の船を発して江戸に渡る
史より三年の間交に吉信あり四年目文化八年五月廿
一日ハリイシリノ内海の嶋ノラトのセンベコリン口是処海所之
といふ処へ魯西亜船一艘家組六十余人口首長をイリコルと云
船も其をコセンラアンモフルといふ此船を右留之シヤナ船と云
是年来りし人にあらず須際流の船にて居候し八人上陸
して口内吉人ハ姫夷の内ラウロ人なり薪水をとらふ船とも
云語通せず且魯西亜人と見るならハ其言を論せず須ず
掛ふべしとの意をのけて知に其ハ中の書情少々を聴
八人を生捕魯西亜船も動のあるといふ船を発せしが
強く戦ひを好まれ帆を覆て屠ふシヤノウカに渡る
其虜八人ハ左ちに松前へ送せり日の年八月再びシヤナ

船一艘口家組の人数を年に回し屋敷蔵敷の商人際流之人
是年口文化五年アトロフ海へ掛きたる事人を人口五ヶ須と
いふ故合四人を伴ひ日到センベコリンに居候し屋蔵の際流
此人を生上陸せしめ去年引捕し八人を返し給ふべしと請ふ
其処の海人ハ接拝こも不及ず書の人数を出して少々を備
ふシヤナ船是を見えて其成就きを知再び其人五ヶ須にて
貪て上陸せしめ上件の熱を云海人ハ議して云此処の書
情人数多ゆゑ須意貴寝食をあんせ流して防ずるに
疲労せしめ松前の話返日数経ハ死人力を如べし偽て
彼再ハいたん八人の虜を制首をとれる時ハ彼怒りて
上陸せい勉戦を討ふべしとうさ原時ハ速に海帆をへし
左とひ本ハ場り人数を渡し来るとも其ニ所の時に
到り船自由あらしを間にはハ松前より書の人数もかたる
へしと一策を出し者を乱るを是に回し五ヶ須を使とし
てシヤナ船に出し○此使容易ならず須奥縁の者

と云丸ニ乗りて乱妨し人を捕来りしを皆ゆるせりとて
首長より其の段を申入る如何様にや其国へ渡さは宜しく
下總島ニ来ぬ時も（コルニトン）隔て通辞を解て其言葉を云ぬ
然とも首長并八人の者家ニ返すといふ事を叶はす比時に
再てリケニリの蝦人東アの人数を十人余返リて松前ニ参る
處洋中ニ而ヂヤナ船を追ひて船に乗る船中日本人一人
捕ヂヤナ船ニ乗る諸八人の者を取りて同所に在る松前ニ
至由を答ふ又此時摂津兵庫の船頭高田屋嘉兵衛と云ふ
者ロプトロフの隊長（ペトロパウロフ）の地りをリケニリのケムイ
ともふ船に乗船せし而ヂヤナ船は船を見て是非共捕ふ
其者四五十人余得撫島へ来り首領に事を頼む首領
を始め其船の者帰らされは一日も船の内婦人を首長
妻之得共其船に乗てヂヤナ船を撃つより船中の
者を解き首領ヂヤナ船に従ひ酒類を設て是を
饗応して居し日に首領も捕を免たりなよ

其人と思へし既ニして首長高田屋嘉兵衛に云曰本ニ参るニ
い宜しきを日本ニ得して訳之と高田屋嘉兵衛を遣して話きを知る
故ニ於ても役を以て速ニ饗応して云其事を聴ひ彼国ニ至る
べし我が食料を入へしとて已ニ船より米五十俵を贈し
て穏しむ首長大ニ悦ひ縄を解き日本衣服を着て
其諸ヶ妻ニ語りて其船を離て其国ニ帰らしめヂヤナ船
も其ニ帆を同十年五月廿六日セニ（コタンケシ）ヂヤナ船一艘の
其船の人數ニ付して是を遣し高田屋嘉兵衛を送りて
其者一名嘉兵衛を上陸せしめて云是年カラフト エトロフ島
其の命ちを乱妨せし事は素より魯西亜王の命にあらず是
ホカニヂヤノツカホの属国ニ住むもの其者の仕業なり依て
彼ま処罰ニ處し自今已後其国の地ニ至るを禁ずる次第已
に之虜八人を返しけるはやさんの為一昨年の五月
此地ニ来りし処弥ちさりき其国の事あしらひニ違へ
船を返しめ去年高田屋嘉兵衛を捕て陳ニ其国の事情を

蝦夷始末

松前ノ下ニ入ル

且王處を滅し前長謀を拝乗し虜人の情を知得て
處の謀策として吾兵器衆を翻し彼とも互に利いたし之を
古近し旅泊其外倉稿の勢を翻り音西亜船を攻る
是よりして蝦夷の手段の分をもたらしぬるとは知ぬ
松前ハ元武田の族子にして最祖若狭守信廣享徳三年
松前手下り新之張縁を称号し謀作の其下国を領し
蝦夷やうもあらハ一揆して静むる次四代の孫若狭守季廣
の時銭宝を納して蝦夷を撫るも是より手に順ふ五代
伊豆守慶廣の時文禄三年正月中旬秀吉太閤より
蝦夷一島を始め松前を領知し[illegible]処の高札なる
の下知を蒙る[illegible]若此者を背くもの[illegible]誅
罰せしむへき旨の朱印を賜りこの時より[illegible]を
松前と称し松前の福山に住し歴世奥羽交易の利を
以て領知とせり○中古此国西国より商船入津し繁花の地
なり ○同七月四日 蝦夷地へ兵粮米[illegible]

大関 嘉情 海岸 巡分

五千石○大[illegible]松前越中守[illegible]松前家[illegible]代々
六人の内[illegible]越後[illegible]村之[illegible]子[illegible]
子[illegible]代[illegible]若死 ○同八月十五日
深川八幡祭礼[illegible]十九日[illegible]群集す[illegible]
[illegible]溺死人凡千五百余人 右一件に付其掛り役人
[illegible] ○同十月六日分 常憲院殿百回御忌
御法事東叡山にて行はる[illegible]
同十二日井上[illegible]大夫[illegible]下田浦[illegible]浦賀[illegible]安房上総
海岸見分[illegible] ○文化七年二月[illegible]
[illegible]松平越中守[illegible]名代[illegible]
[illegible]安房上総[illegible]
[illegible]松平[illegible]
浦々[illegible]領分[illegible]
[illegible]中[illegible]
時浦々[illegible]上地[illegible]

浦々ハ両度ニ及フ ○同所警衛 御使番 同
村垣淡路守 御之松前ヘ被遣
十二月十日 峯姫君生 ○此母ハ方寺江ノ御側室 お袖之方
安姫君と申せし後ニ水戸殿後室峯姫君 文化八年七月水戸殿ヘ御入輿
院殿 同 華陽院殿 ○同十八日 羽太安芸守正養
箱館奉行 蝦夷地ヲ魯西亜乱入ノ砌 松前ニ在リ不行届ニ付御免
小普請入逼塞 御目付 同十七日 江戸ヲ発シ 蝦夷
上蘆戸ト云海賊を [illegible] 蝦夷地 [illegible] 松前
同十二月五日 松前路 千代 仙台侯 松平 [illegible]
蝦夷地警固 御目付 同九日 魯西亜船 [illegible] 浦々
鍋島 [illegible] 同十二日 小普請
伊達 村上大学 山県 [illegible] 来
東蝦夷地 [illegible] 同五年十一月 小普請村上山図
同 同日 南部大膳大夫利敬 七千石 津軽越中守寧
親 五千石 拝借 御目付 文化五年正月九日 十

二日至 津軽越中守 十二日 人數 出陣 蝦夷地 発
向 同十五日 人數 蝦夷地 出陣 蝦夷
地ヘ進発 同二月五日 仙臺四千人 南部五千人 蝦夷地ヘ
発向 同十二月 仙臺 津軽 [illegible] 同四月五日 帰
朝鮮使 對馬ニ来聘 小笠原 [illegible]
金 御目付 ○ [illegible]
割合 [illegible] 年 [illegible]
江戸 [illegible] 京 [illegible] 播磨 [illegible]
同 江戸 [illegible]
津軽 [illegible] 四 [illegible] ○同 七日 [illegible]
蝦夷 安藝 [illegible] 魯西亜 乱入 [illegible]
不行届 御免 同九日 [illegible]
井上左大夫 [illegible] 下田 浦賀 海辺 [illegible]
見分 [illegible] ○ [illegible]

諸尼利亜船傳
漢乱婦

の義へ表揚名之・相見浦賀橋明表・其見建水親書諸親
書山至其下田須走婦・房見洲之婦上総書百長故合六ヶ所
○同六月十六日ヨリ十八日之江戸及近国大雨所之洪水
同壬六月十八日ヨリ廿日之至江戸及近国大雨同亦九日晦日
諸国大風同七月廿日大風至其浦賀相州之浦
七里濱房州鎌倉長州瀧紀長和泉浦出通船漂
流人多死江戸近国洪水田畑損同八月七日八日大雨
江戸及東北諸国洪水同十五日西諸尼利亜
国の大船長崎港に漂来民家を乱婦○同十七日
頃ニ至て此帆を七艘を行相手号事既同十八日朝之
異国船此帆の港用同之調其浦賀の船来云上并帆新
見隠の注を云ヶ所此商事と仕置て大早者次之者云ハ
後港用の間へ此入此隠密の此用其事を以ニ張ヘとかるを
陣線をて至之後乱暫く諸国と称ニ乱婦を為ニ小性人の
諸所ニ乱婦を乱婦を明細知ニ伏候

乱婦を引起之は切絞之様実事後命第二條ニ作も置之右
ニ申候とも表向ハ病気の筋ニ候ニ至り候趣ニ之ニ遠る
等も其御ニ当ニ病死捕殺之ニ此七日葬送有之ニ右切絞
之御所ニ上候大意之趣ニ於ニ紀人両人ニ於ニ取之
之候御ニ至捕使之者一旦此御所へ引取之ニ至事弱の
名物仕義日本の所事ニ者ニ於ニ事ニ之ニ於ニ病之は
中内之人常ニ申候ニ而ハ御今又公義の御威光を称
ニ候中諸意ニ下ニ乗ニ十五日の頃ニ候ニ至ニ人ニ漢内へ乗
入ニ義ハ東ニ於て其陸手の縁ニ見候ニ対沖より理ニ至ニ大報の
仕業ニ至ニ義人ニ申ニ候ニ紀事ニ而ニ前ニ大事ニ義
至ニ之ニ防留下ニ義別候ニ見候ニ而ニ於ニ候御所の至二ヶ条○十五日
ハ晴夜ニ下ニ大異ニ人ニ候ニ紀之被ニ而ニ御通り候ニ而実ハ
紀事の事ニ見ニ於ニ候ニ其ニ諸人の人数ニ於ニ有ニ廃り
候ニ而ニ不出調ニ於ニ見流ニ候ニ而ニ候ニ今ニ当年ハ実事紀
船ニ乗ニ人ニ得ニ因ニ事ニ之ニ許ヘ引ニ而ニ出事所ニ之人数ニ御ニ四五

十人も出張し住合者所詮三艘の異国人を防備しかたなし
し故無与見過ぎ候詰る者は其所に出張列し兼ね其法の人数
も立て知大船は鍋島の手船と申因為を行因之見ゆ
諸人ヲも手当田紀にも下親知其事は為所の実虚を見
兼は紀事の不調法といふ也中ニ申一事行こゝろ者不行面故
行要之事を立所しに候今更不行の事り是三ヶ条○異
国人より法外の横文字を書て不届至極に付徒討の手当
紀事罷後へ申渡知人数当若其を出不及見紀毛人より
なるやうなる元年も但出張其数を来聖業にあらへ紀毛人
よりも半二更兼ふさ出来候りよし諸方より徒討こ不仕
し様立候兼は早竟人数不足故和平の元数仕候不調
法に拠頭分ゝ是四ヶ条○大村上総介兼今二時平も
早く当若仕は申請て諸所の人数并地下諸人共又は諸
早技摩人数出を元合て徒討もて仕処紀事の人数
習こ合不申且上総介当若其年にていて拠ゝ得共禮延

内異国船出帆仕兼相当之様に候ゝ自後も御手行
こ兼は兎角大身の者に　御身殿大五ヶ条不調法の元数
諸智なく兼鍋不行面兼共今更後悔こ及ぶ共一身の能摩
は左衛門（ヨキ）以場こ至て下の出能摩を異国へ殿分条不調法
の仕合ゝは其を為出所切結仕候出捜殿給り至人八月十日
松平兼事既大こ年至正大騒事日十月十日鍋島甲斐書
出温を拠聖侮事当竟へ百松平紀事当前我諸左利亜
船も崎諸事の義漢国へ鍋船を入出事所を誰返
せし時家事とも云諸方ゝ行面兼ゝ細数の形勢を上
当者之和人数手当に諸の様子不来の至信為不調法通塞
に　御身之聖年二月十日通塞　御免　○同十二月十
八日南部大猪大夫事は和蝦夷地一番の警固を方并
法軽越中守相手へ永に　御身領知廿万石人出
し以下且又侍従に　御身之法軽越中守事は
東蝦夷地一番の警固を方并南部大猪大夫

右手へ永永 御身領知拾万石ニ出し 永下四郎永
御身与永 御隣之同十九日服坂中務大輔朝鮮
来聘の御對見へ副吏として依永也 今子壹万五
千両拝借永 御身 文化 六年正月十六日日向國那
阿郡福島 秋月山城守領分 美玉郡深流 右ハ大清玉衡江省寧和
家組其七人御乾祝之
同二月四日壹山左馬尉 朝鮮決定使應對ニ
江戸發足同廿七日安松君生 此母切ニて方ニ相氏文化十一年ニ月
同廿万分同廿四日ニ至信見松本領 ○松平丹後守領分
○安曇郡山中明郎 ○同廿四日ニ曹方南小五ヶ間余東西
四ヶ間余大地破裂岩石拾貫中ニ長村ニ四ヶ村及村ニ六ヶ所
家数廿七軒因物とも寵落人今ハ無なし ○同四月
五日津軽三十郎 津軽分地四千石 右家越中守薨来ニハ子
石を加一万石ニ高ニ増石ニ成ニ高ニ兼の如く此事
出為右節度の旨 頭ニ通永 御身柳間席ニ
永十年ニ同十六日松平今ニ物容ニ乱ニ為ニ

新編今津風土記年號 ○同五月廿三日今津大雪風土記依
年號ニ云ニ御座一柳 新ニ云ニ入ニ年限二拾枚 成井定平入自限十枚
右編集山精の旨為此雇貴之下ニ ○同六月増上寺
五重塔再建 涵井雅平氏様 昌明 造営成 同七月十日文
姫君生 ○此母切ニて方吉江氏女文化九年五月廿八日御
意様 此年ニ同十二年十月六日山王此ニ家系 弟九大夫ニ此
三十年同十五日此御解 高松力郎十七子ニ貞五ヶ入此家組
御出 文化四年十月廿三日此原家御 同七年十二月十六日貞五
郎叙爵四位下任侍従 三月大将 新宿ニ中 同九年十月
廿七日此川稲此戦礼 下保八年二月十六日逝 謚 昊 院殿
葬儀通院 ○同八月廿三日より廿四日迄江戸ニ国
関八州大風雨 神社仏閣或民家破損 大木数多吹倒 此新深浅年 同十月十日
宗對馬守義功朝鮮人對見之十年ニ御了ニ御
国ニ至ニ合の此用信為右節 今子ニ万両 拝借
永 御身同十二月五日 保之 遂日君生 ○此母切金方

清水附

古屋君書 知光 養女 實物理多門 右之女 文化九年 五月廿
八日 御花稱 法書 同十三年 二月十九日 山王法 三家 隨御之義
西丸 大奥へ 法三家 同十二月廿九日 清水 法屋敷 記者 ~~[illegible]~~ 御
出 同十二月三日 清水へ 法稱 從 即日 為 法礼 法參 城 同十四
年 九月廿七日 御見 兵ア 仁貞 敬 親王 姫 之 法緣 組 文
御出 文政二年 正月廿六日 紅葉山 法 文姫 為 法 家 謂 同 二年
六月五日 法之 緣 法 家 信 從 三位 中將 兼 或ア 仁 法 孫 号
清水 宮 鍋 穆川 安 明 仁 と 孫 同 四年 九月廿六日 教 方 法
方 法下 向 法 御 丸 大奥へ 法 家 同 廿九日 清水 鎮 一 法 引 稱 同
六年 二月十七日 法 婚 稱 同 十月十五日 法 御 鎮 十万石 記 之
家 也 花川 古 法 与 花 村 組 為 書 記 為 隨 同 七年 二月
十八日 御 鎮 記 稱 同 十年 六月十日 遊 謚 實 童 院 殿 三位
葉 清 雲 院 ○ 法 ヶ 庫 事 也 恭 光 院 殿 と 稱 法 ヶ 丑 年 之
三 年 前 ヶ 上 鍋 翌 十 日 思 召 之 只 今 之 之 飯 知 王 經 子 記
如 無 法 稱 ヶ 者 ハ 清 水 隨 と 言 以 無 者 記 御 出

文化

七年 正月 朔日 佐 隨 國 大 地 震 連 日 不 止 同 六月
八日 分 十八日 之 至 諸 侯 上 書 惇 信 院 殿 五十 回 法 忌
法 清 子 法 稱 訴 法 清 子 書 訴 稱 御 書 同 十二 月 要
之 無 君 生 ○ 法 母 相 不 方 同 九年 五月廿八日 御 意 稱 法 書
同 十年 十二月廿五日 田 安 右 大 賛 所 匡 仁 女 猶 姫 方 ヘ 法 聖
書 子 記 御出 同 十三年 二月十九日 山王 法 三家 隨 御 之 義
西丸 大奥へ 法 三家 同 廿 日 田 安 ヘ 法 引 稱 文 政 三年 六月五
日 法 之 緣 法 家 信 從 三位 中將 兼 右 大 賛 所 花 仁 同 九月
廿 日 紅葉山 法 家 ヘ 初 事 法 參 請 同 八年 六月十二日 御 鎮 記
稱 同 九年 二月十八日 法 婚 姻 同 十二年 七月 五日 記 任 宰 相
王 保 二年 四月十二日 猶 姫 法 方 納 留 同 七年 八月廿 日 田 安
大 納 言 家 匡 仁 記 右 親 通 ヘ 節 句 法 月 稱 と 稱 只 今 之
記 之 十万石 大 賛 所 花 ヘ 王 經 記 為 之 田 安 殿 神 田
橋 屋 家 法 住 居 王 經 記 為 之 記 同 八年 八月廿三日 記 任
中 納 言 同 十年 二月廿六日 屋 敷 ヘ 法 出 稱 記 御 出

御合路 谷所

國鑑

又今日中納言殿へ被仰付十万石以上国主一位殿御七男松平
肆之助殿に被仰出候也 同年五月廿日中納言殿
尾張殿へ御引移同月出雲守殿御用番 ○同八
月十六日御返答 法印 従 姫ニ方出川様
仕並御目見 銀 御年寄 御合路 依之十二年御
同九月四日今二六日より 赤坂 御寄合 被仰付
五日 東叡山 浄明院殿御
十月廿七日國書鑑書写也 出張等有 同
儒者今御 ○是ハ天明八年十月十日通鑑綱目を依
兆去りて 御 被 儒者 申 被 之 請 第一
紀 兼 御 先 之 事 文化四年 尾張殿 右衛門 仰 付 良 助
先去 依田 御 事 致 御 年 ヨリ 卒業
七 之 唐 [唐] 虚 御 之 武 中 建 武 十 二 年 之 事
巻 快 二 十 差 尾 ○ 同 十 二 月 五 日 甘 殿 へ 法 眼 入 合
[林] 林 時 二 法 眼 井 大 学 頭 井 上 美 濃 守

長崎 勝 殿

柳生主膳正 上山 左京亮 依 御 勝 右五人 拝
領 物 同日 新 合 五十 拾 時 勝 十 出 馬 一通 小笠原大
膳大夫 義 朝 鮮人 来 聘 御 延引 御 使 を 被 仰 付 御 用
意 等 別 予 相 入 一 度 ニ 被 仰 付 候 ニ 付 以 今 壱 方 両
拝 領 之
御 新 合 三 年 拾 時 勝 五 百 両 鞘 興 役 中
勤 出 精 同 日 十 六 日 中 務 大 輔 朝 鮮 人 来 聘 御 用
也 勝 右 京 亮 帰 府 上 之 献 之 候 因 之 ヲ 以 法 務
武 王 被 下 置
文化 八年正月廿二日 龍姫 日 御生 御 法 名 海
同 二 月 十 二 日 江 戸 大 火 ○ 申 刻
了 解 寺 出 火 同 年 六 月
寺 社 奉 行 達 書 届 一 所 拾 火
市 ヶ 谷 御 佛 殿 合 也 寺 出 火 紀 伊 殿 屋 敷 并 町 方 一 円 焼 失
谷 町 市 谷 町 西 寺 町 御 当 寺 殿 町 出 羽 根 一 円 焼
失 寺 別 ニ 至 る ○ 同 十 六 日 紀 伊 殿 へ 合 力 武
万 両 被 進 候 ○ 同 十 九 日 小 笠 原 大 膳 大 夫
帰 殿 へ 参 上 紀 伊 中 務 大 輔 三 月 二 日 発 足 同 三 月 八 日 帰 右 寺
若 年 寄 ○ 御 地 御 向 右 之 大 久 保 石 見 守 之 内 三 千 石 拝

朝鮮来聘

余上聞之 御覧日所 地獲色利證論書清平至愛明地
の田三千七拝七下ゝ ○同十二月盛順君生 ○此母なやへの
方文化十年十月十五日此繁盛日十三年二月九日 御[illegible]
此書に文政二年十二月二日 佐賀侍從 松平紀家守 政主朝臣
嫡子 鍋島眞丸へ此縁組日五年九月十八日 山王此家 [illegible]
御ゝ長 鍋丸大夫へ此三家 同六年十月廿八日 此縁 [illegible]
八年十月廿七日此引 縁此 [illegible] 日十二月廿六日 [illegible]
[illegible] 政主朝臣 父子左右代 [illegible] 此 [illegible] 日十年
十二月十五日 眞丸 [illegible] 御目見 日十二月廿六日 元 [illegible] 一字此 [illegible]
[illegible] 設四位下 [illegible] 信 [illegible] 日十一年十二月十六日
政正 [illegible] 任 [illegible] 日 [illegible] 袖留 ○同五月十一日 [illegible] 武 [illegible]
上 [illegible] 同七月十八日
今 [illegible] 朝鮮信使 [illegible] 礼 [illegible]
今日 [illegible] 出 [illegible] 面 [illegible] 此 [illegible] 上
[illegible] 席 [illegible] 此 [illegible] 仕 [illegible] ○朝鮮信使

来聘のたしめい 家長五年 [illegible] 御 [illegible] 此 [illegible]
[illegible] 朝鮮と和解 [illegible] 義 [illegible]
[illegible] 朝鮮 [illegible] 三年 [illegible] 國 [illegible] 朝鮮 [illegible]
[illegible] 朝鮮 [illegible] 三年 [illegible] 有 [illegible] 十年 [illegible]
和平 [illegible] 正使 [illegible] 大夫 [illegible] 吉 [illegible] 使
通訓大夫 [illegible] 通訓大夫 [illegible]
[illegible] 三使 [illegible] 使 [illegible]
[illegible] 三使 [illegible] 江戸 [illegible] 五月 [illegible]
三使 [illegible] 御目見 [illegible]
[illegible] 三使 [illegible] 十日 [illegible]
[illegible] 日 [illegible]
御目見 [illegible]

正統の家にて合せられし先より請ふ之和之年而て天
下一統の賀使の○台廟御上洛御入城にて往聘對馬守
義成の時寛永元年十二月　大猷院様御世継の賀使
同十九年七月　嚴有院様御誕生の賀使　明暦元年
同御世継の賀使對馬守義成の時賀使對馬守
義方の時正徳元年十月　文昭院様御世継の賀使對
馬守義誠の時享保四年十月　有徳院様御世継の
賀使對馬守義如の時寛延之年六月　惇信院様
御世継の賀使對馬守義暢の時明和之年六月
浚明院様御世継の賀使を迎ひて江戸に参上せり
當御代に至りて對馬守義功の時天明八年五月　将軍家
御代継もあるに当て朝鮮王へ信使来聘の事を上し
とゝのへたる時を延らるへしの旨仰を蒙りしかハやかて
議政礼曹参判の許に書を由て達せり　回抑宗家世々
朝鮮の事を掌るハ最祖惟宗判官知宗をはしめて

對州を領せしより九代の孫讃岐守貞盛の時嘉吉
元年朝鮮と和親し交易を通せし時朝鮮と約せる事
交易の船歳々五十艘を以て限りとし又渡海の朝鮮へ差渡
船の船必對馬守之宗家の手形を請是を以て渡
とせしか後細后其を以て交易の事を掌らしむ後
世に至て船員も増し近きに到りてハ交易大に盛隆
しき事にて張宅まてなとし文化十四年二月廿八日朝鮮
王より交易差障頻年来情々なるよしも申し下されしあり
是方より代々朝鮮王の御用来事ニより格別の沙汰を
以て御料として彼方より存知下携剣の事ハ返答仰付
まへしとの信を差遣せり文化元年六月御代替之年始
録信使来聘の事目見あり有て今是まて延られぬ信
使當地へ来ることなく對馬に於て聘禮を被仰付
仰せさせし処議政府にても取りせしめ其年の内對
馬にて信使来聘の事を止しと仰付さされし四年六月

廿九日小笠原大[illegible]伊与守君徳○後大組大夫小路む侍従子任
せらる新鑑人本卿の[illegible]勢長へ出使としてきまる銀坂
中務大輔安量右同断二年伊豫守へさし添お勤へきの仰
を蒙る同五年七月六日林大学頭衡儒者古賀活助朴
森は大学大塚伝義信之男右者四郎思考云事子奇
勢長へきまるの由を以仰後三後大目付井上美濃守
は目付遠山左馬尉京晋佐助紀後守庸貞等も彼地に
到る並しとの仰を蒙り居子卿殿の頭文化八年
五月と定りしかい三年の姫名勢長へ越て此時勢長
の國主い勢長守義功り嫡子にして勢長守義質と称
して侍従なり○此時義質生年十一年当年い十六三進
[illegible]も子及と同伏せり」玉門玉府寺と云寺同年
宮鉢を建本卿の体呉所として邸飛を修補し卿
殿[illegible]の所とし当渡卿の義を挑せり[illegible]文化八年
三月廿九日午の刻に朝鮮の正使政政大夫曹參議知製

教全履喬○字公世号竹里四十八年副使通訓大夫弘文
録典籍知製教兼経筵侍読官春秋館編修官勉求○字
子餘号南嶽五十五年上上官知中樞府事去年絢○字蔡天号
恒ら軒四十七歳大護軍云斌○字陽元号一遅五十五歳同知中
樞府事崔昔○字明走号菓秋四十四歳上判事前判皮子
文圭○字玉汝号梅軒四十七歳前主簿崔仁武○字章林号
雅堂四十三年漢学上判事前正李儀就○字雲郷号滄
海六十五歳次上判事前主簿金祖孝○字子祐号春蓮
三十歳前判皮秀東益○字杰哉号清蓮三十歳押物判事
副司猛趙行倫○字明五号遥房三十七歳前判皮洪得俊
○字伸偉経国三十七年製述官奉常寺僉正顕相之○
字大率四十四歳正史書記印学金吾臣○字士偉号清山四十
九年副使書記通雅郎本明五○字李良号泊蓮四
十四年副使書記一医員生従金陵周○字汝安号活元秋
四十五年副司有功京都○字清夜号信吾所信国寫

字官護軍皮宗弼○字子重号東山岡四十九歳画員別司
果本子義養皇○字爾信号信岡四十五歳行上ハ上ニ官有
上官正使軍官前營將具毅和前府使李一愚○前監
柳相弼通政郎趙晩鴻○副司勇文永姓○副司宗支
尚衣
蒙陵主簿李勉秀○内宗運極前五衛將完外○前營
將許家○前總監兼令最行○正使使人進士李哲○別
陪行印字令前李敬天去○知事陽元去○知事明遠崔
日知行上上ニ官三員○王如午判事章叔崔○主簿漢
字雲郎李○判事行上○上判事三員○孫令主簿
義泰○主簿以上上判事二員○明五趙主簿仲偉
供○判事行上押物判事二員○相三李○製述官古
製述官一員○正使士諱金書記副李良書記二員○
汝安金○主簿登敬外○主簿医員二名○早主皮・護
軍右守字一員○兼信李○主簿○画員○正使軍官吾呉
副使軍官○行上二十四員○正使使伴倘二員○別陪行一員

理馬一人○喂養一人○一到驛船將功人・右次官七員人○驛鐘
直一人礼学直一人○一二と船將功人郷書記功人○都訓導二人○使學
三十名陪小童十五名○小通詞○刀尺五名○使令○吹手十名○節
戒手四名○形名手二名○吸唱四名砲牛四名○令稱手四名○
清道旗手四名○洲五十六名○纛牛二名巡視旗手四名内刀
手四名長鎗手四名○馬上鞍手四名○細鞍手四名○大鞍手二
名○三穴鏡手二名○細樂子四名○鉢手一名○右中官一百六十
九名○風樂手十二名格軍一百十八名屠手通一名○右下官
三十名執合人員数三百三十四○使員合三百三十六對馬
府中漢ヘ名字○釜山浦より四十八里と云其日上陸國府
寺○二府中国府寺の境内ハ高ク三ツ是を設置ス尾家
是十町と云りといふ客館ハ入る四月九日正使副使上
官ヘ客館ハ高ク七五三の出料理ニて出食意あり日土
日ハ上ニ中官同十三ツハ軍官已下下官ハ出料理を
以下同十四日小笠原大隅守ハ府中小笠原○

壱岐の勝本より出帆海上四十八里と云り十七日上陸府中
金石と云所を止宿とす○金石ハ府中ニ有之元国主の居
城なり此処より○国主居城と十四五町と云り五月朔日総
坂中村古川某着府内謂テ居府内十六日上陸府内金石
の僕ロ家老平田某之外を以総名とす主が林大学頭
大目付御目付以下の人々も来りて○金石の近辺に居を
用人の家々を以旅宿とす館ハ町家にありて十六日
朝鮮の正副使と共に宿館として客館へ上使従事中
務大輔安芸守口宣写ハ其の事ニ付て筆談ニ酬子孫で
聘礼の儀式ニ上使副使は客館して国王の書簡且さ
さけ両者の儀式をなしあり○是日上使以下大目付其外
写林家々御目付大紋の直垂其儒者其の装束布衣着
各是ハ上使上官等其外其目付とも下役其儒者
其者等ハ上使の儀入来小笠原家来の上下を着朝
鮮ハ両聘使上官上々官三人○下役等の其者其外の

官人ハ両聘使の儀の大廳を着し其外の上下を着国王
書簡ハ其方朝鮮両使の前に上々官持出す御目付持來て
席に置聘礼相済て其方筆両人に是を御渡し○国王を
始め其外聘礼の間両の張出し小並へ並両使對上あハ前後
並へ並の後送之事あり以て其日同謝小笠原て朝鮮人休養
す○是日上使對面ニ付衣大目付大紋着ハ修聘の日小
目し○此料理の品ハ為聘使へ七五三四ツ目五ツ目引之而呈而
二ツ上使其従之上々官へ七五三四ツ目をも目製述官両医上判事
書記は上判事押物判事医員写字官画員軍官へ七五三を
出ハ三十二菜下官以下ハ弓術能仕ハ数人家臣之を勤む其
他上々官以下ハ長持ニて是を勤む以此八日小笠原家来の
大夫旅宿へ礼曹并両使の音物を持参年礼書より
虎皮二張豹皮二張白苧布十疋綿紬五疋黒麻布五疋
壮紙二束色真筆二十柄真墨十笏大蔵小笠原より正副使より
虎皮二張豹皮二張白綿紬白苧布黒麻布白綿紬五疋

無本錢十疋花席二錢大基圖子形より四月分方大接換を
して宮鍋へ使者を差出し○按ずるに銀拾五匁に給りし前へし
以ずるに書譜を得さるといへの事後四六月新日信使へ出擧と
して接新板組樽ホ新下○前日上使ゟ對見ハ力無本唯此し
中進し翌日本銀七五之方より請元兩鍋使旅者へ給ふ
翌日出發として上ゟ度上使あらひ上使旅者へ飛
越又同九日大給夫丈ゟ西副使旅者へ時候見舞ニ○漕
漬鮑一桶五十入大家鮑一器三十斤入同十六日信使へ西廣目出擧
初日小同一同十五日對ゟ鄭ゟ鄭ゟ旅之國王へ出送ゟ出發の
義至○義後義至ゟ之事ゟ鄭ゟ鄭礼の日と同一○出送
ゟハ出大筆詩送大目手覺書上ゟ度是を請元是日公方様
大納言様より國王へ出義為ゟ又正副使ゟ下へ拝領ゟ
之○出送ゟ記作隊ゟ隊て後西使へ於ゟ西上使より中通對
ゟ書目録ゟ隊上ゟ度ゟ下ハ對ゟ書ゟ力無老下從ゟ唯此し
目録ゟ隊ゟ力無老布銀を差出是日朝鮮隊王出發

上使より中進ゟ同十六日大給夫丈ゟ礼曹へ白銀五十枚
綿五十把正副使へ白銀五十枚上ゟ度之人へ各銀十五枚
宮鍋へ使を以てきゟ○按ずるに服拔よりも此ゟ五ヘし来切
さるといへの事後四十八日上使ゟ下の出詩人家船同十九日對見
濃出帆同廿六朝鮮王ゟ鄭上の出馬一疋出發十五疋至ゟ
出京とも家船同廿五日朝鮮人隊帆國王書簡朝鮮國王
奉書日本大君殿下○鄭使の礼・贈諭四起○遊義殿下
を誌へ洪緒○延撫區域○体聞副及傾聳易色○茲備後
常○庸伸賀使王於易地行鄭之事○寛出閑悼好之義也
○不腆古里郡寓遠帆○惟冀益懋令猷美膺休祉不備○辛
未正月日朝鮮國王ゟ公方様へ參議之京人參之二斤之大倫子
五疋天鵝子五疋○日芳布十五疋生芳布十五疋白綿細廿五疋黒麻布十五疋
虎皮七張貂皮十張青黍皮十五張魚皮五十張昆布十五卷
粉花席十張各美罩二十柄玄墨二十挺黄蜜五十斤清蜜
五罐扇子十張鶴馬一疋鶴具大納言様へ人參二十斤大倫子

日十枚宮主へ同或ハ枚上書次書小童中へ同或ハ枚中書下書
中へ
同九月朱八日服部中務大輔安藤朝臣本鄉朝臣
用お節ハ為ハ作候哉ハ作ハ
前拝領○同九年六月二日飛騨守朝臣使本
飛騨国用務年出精候為お節有借金壹万五千兩ハ及返納
候哉ハ御尋候處○文化八年二月十二日拝借金五千兩ハ未亥年ハ
十ヶ年賦返納可致旨○此外小役人ニ御用捨りの面々
黄金時絹共銀ハ福之同十月六日天寛日記
御用お節ハ〻ハ眞ハ御右筆組頭屋敷定式ハ
書物ハ御ハ御清書ハ御ハ
銀子ハ以下○天寛日記ハ上ハ天正ハ下ハ寛永ハ之書ハ実
を正史より元て無之也ハ
ありと云○同十日ハ十二万石ニ於ハ上書
文政隆廟百年御忌御法事

同十月朔日小笠原大膳大夫ハ鞘隆拝領同十二月朔日
宗對馬守義和白銀壹枚時服二領○東照宮
ハ枚同七月四日宗對馬守義和敷鍋使ハ用積ハ御法事
南申年ハ二十ヶ年の習毎年金子弐千両ハ綿ハ
実政五年の拝借米一万石文化六年の拝借金三万両ハ三十ヶ年
賦ハ返納可致旨○同月十六日御年寄ハ御使番
御ハ拝借ハ御ハ御ハ
敷ハ義ハ御ハ事申年ハ五ヶ年ハ限ハ又ハ
御倹約ハ御ハ御ハ
略の事ハ分習ハ入用方面ハ
出精致ハ共費ハ
御ハ
御ハ
御ハ
御ハ
一通ハ

十月廿日届

二条大政内大臣薨

文化九年

既に人々を無とし話すを云ふ如くも訂正校定日一
池方清出方家學方なといふ詩あり享和三年の表寛
永譜半頃の新刻を止め云ふ僧の新子詩作之文化九年十月に
到りて云ふ僧京景出和成頃一子書三十卷是を寛政寛
僧詩家家譜と若干ある一席文八西鶴雅臣之化例目錄
十卷を剥らる日十一月廿日習之男子並へ出世中方出見る
出師男人出日上盤之上紀義山出文庫ゆめらる日十二月
廿八日寛政譜副出書寫御用之 御身出御用御の内より
大出詩文 御身出摩 御勢出 御用出 御用出 御用出 御用出
出用西丸新出組改老人西丸出小性組老人 御身 ○是之
の出詩之日十二年十月副出 御出皆出来之年羽目之男人
並へ出世中方出見分ゑ之 後日光山出神廟へ出納之者 ○
同廿九日親宮刻日光山大學院より出火坊中
及出宮塔焼失 文化 十年正月四日日光山御山
内焼失之年出使番松田善摩へ出宮并出靈屋

見之日御用之 御身之日十四日和姫君生 ○出母田之中の方
當根氏日十二年十月十九日出繁安日十四年七月廿六日 御出繁
出書文政二年十月廿六日出紐解日六年二月廿八日也 御出
松平太郎大夫大江廣照朝臣嫡子家同大輔大江親之朝臣
子松平條三ゟ入出 御組日八年十月三日出 御紐解日九年
九月廿日山王出宮系西丸大夫人出宮系日十二年十月廿七日出
紐解日十二年七月廿日出 遊謁 貞淳院 八月二日出 椎
葉多 御出 ○同廿三日孝姫君生 ○出母田之中の方吉江氏
六月朝日出宮系日十二年七月廿日遊謁淳脱院 御日出寄葉
上野清雲院 ○同廿日 詩詩人食屋の事之年
御出 ○詩詩人中節方中合文以前之悪意にて詩系屋
酒高遊恩ゟ男家以前重之 相本 如之 御之出屋の
芸猿ゟ男家風 嘗も至之 至之 七年 御出 遊 ゟ
出 御出 ゟ 御出 ゟ 御出 ゟ 御出 ゟ
至之 根之 言めて之ゟ男 御以厚 出 御出 ゟ

十年日本語教育振興会設立 ○同廿八日
設立発起人総代 ○同廿九日 帝国教育会
代表小笠原長生 ○同三月
十四日 帝国教育会 ○同廿日 帝国教育会
主催の第一回全国小学校教員大会 ○同廿一日
文部省 ○同廿二日 帝国教育会 ○同廿四日
海陽山人 ○同廿五日 帝国教育会 ○同廿六日
八洲学会 ○同廿七日 帝国教育会 ○同廿八日
大日本教育会 ○同廿九日 帝国教育会 ○同
四月十日 帝国教育会 ○同十一日 帝国教育会
主催の第二回全国小学校教員大会 ○同十二日
文部省 ○同十三日 帝国教育会 ○同十四日
海陽山人 ○同十五日 帝国教育会 ○同十六日
八洲学会 ○同十七日 帝国教育会 ○同十八日
大日本教育会 ○同十九日 帝国教育会 ○同
五月十日 帝国教育会 ○同十一日 帝国教育会
主催の第三回全国小学校教員大会 ○同十二日
文部省 ○同十三日 帝国教育会 ○同十四日
海陽山人 ○同十五日 帝国教育会 ○同十六日
八洲学会 ○同十七日 帝国教育会 ○同十八日
大日本教育会 ○同十九日 帝国教育会 ○同
六月十日 帝国教育会 ○同十一日 帝国教育会
主催の第四回全国小学校教員大会 ○同十二日
文部省 ○同十三日 帝国教育会 ○同十四日
海陽山人 ○同十五日 帝国教育会 ○同十六日
八洲学会 ○同十七日 帝国教育会 ○同十八日
大日本教育会 ○同十九日 帝国教育会 ○同
七月十日 帝国教育会 ○同十一日 帝国教育会
主催の第五回全国小学校教員大会 ○同十二日
文部省 ○同十三日 帝国教育会 ○同十四日
海陽山人 ○同十五日 帝国教育会 ○同十六日
八洲学会 ○同十七日 帝国教育会 ○同十八日
大日本教育会 ○同十九日 帝国教育会 ○同
八月十日 帝国教育会 ○同十一日 帝国教育会
主催の第六回全国小学校教員大会 ○同十二日
文部省 ○同十三日 帝国教育会 ○同十四日
海陽山人 ○同十五日 帝国教育会 ○同十六日
八洲学会 ○同十七日 帝国教育会 ○同十八日
大日本教育会 ○同十九日 帝国教育会 ○同
九月十日 帝国教育会 ○同十一日 帝国教育会
主催の第七回全国小学校教員大会 ○同十二日
文部省 ○同十三日 帝国教育会 ○同十四日
海陽山人 ○同十五日 帝国教育会 ○同十六日
八洲学会 ○同十七日 帝国教育会 ○同十八日
大日本教育会 ○同十九日 帝国教育会 ○同
十月十日 帝国教育会 ○同十一日 帝国教育会
主催の第八回全国小学校教員大会 ○同十二日
文部省 ○同十三日 帝国教育会 ○同十四日
海陽山人 ○同十五日 帝国教育会 ○同十六日
八洲学会 ○同十七日 帝国教育会 ○同十八日
大日本教育会 ○同十九日 帝国教育会 ○同
十一月十日 帝国教育会 ○同十一日 帝国教育会
主催の第九回全国小学校教員大会 ○同十二日
文部省 ○同十三日 帝国教育会 ○同十四日
海陽山人 ○同十五日 帝国教育会 ○同十六日
八洲学会 ○同十七日 帝国教育会 ○同十八日
大日本教育会 ○同十九日 帝国教育会 ○同
十二月十日 帝国教育会 ○同十一日 帝国教育会
主催の第十回全国小学校教員大会 ○同十二日
文部省 ○同十三日 帝国教育会 ○同十四日
海陽山人 ○同十五日 帝国教育会 ○同十六日
八洲学会 ○同十七日 帝国教育会 ○同十八日
大日本教育会 ○同十九日 帝国教育会 ○同

営家文化十年壬十二月六日卒御宝寿七十四十二月十七日
泉涌寺へ葬送法謚櫻町院○同十二日銀杏中贈太
御安慧信敬両段（法養寺御参寺社奉行）共御免此年江戸
大塚の町人某之分限之處一借用金之儀御前
十一年九月七日日光法会正遷宮（御用掛寺社奉行御代参之御名代）文化
（中條御内書合出精腰物之儀）同六月二日青山下御殿同光法之丞
法修復法用仰付前蔵修理大夫拝領之品
四月當日七月中旬江戸在府大旱魃
同七月廿九日銀之助君生○法要金の事同十二年十月
六日法事當日廿二年七月廿六日 御養嫡法事在同九月十八日
法山御説松平越後守康孝女へ法華寺嫁子同十月七日康孝
嫡居敬之法事御内拝之法華五万石法事同十二月廿六日法門跡
同十五年二月法事務文政二年正月十八日信房向相続
移後同七申年二月廿八日之後法一字賜叙任従四位上侍
従之法事家民部卿之中同九年十二月十六日卿從四位以

麻布民部卿任中将同十一年七月廿七日寄贈天保
二年十二月廿六日康孝卿陸奥守民部卿贈朝臣正
同六年十二月五日正四位下中将同八年八月廿五日拝
内田之以叙正四位上○同十月廿日記松島山
法事協上文化十二年正月廿日松平伊豆守
旋営中儀発病暈眩法事中退去（此月法事御成之節）
同二月廿六日今廿八日上之廿五旅宿上寺有章
院殿百回法忌法要執法事法務所（此法事御用）
法類同晦日法法要法當日之事法上寺有章
院殿御霊前法事法（今日法事上寺へ参詣之者并御目見）同三月
九日法法事御備之事法統之同四月七日
東照宮御百回法忌之事旅日光山勅会方事の
法務所今日法初日同十七日法中日同十六日結
願同十七日御當日○法法会之事法之法事法
下日光へ参勤之後三月十五日家中總法内事法法施之

拝見之上御寺札差上ニ而武家諸大夫以上ハ御本堂下ニ
御参詣被為入候事 公方様 大納言様 御台様
御簾中様 御代拝 右相済御法会ニ付御名代自身
是日十八日御経供養今日ハ 勅会之御法事ニ付御出座
増上寺初め公家衆参会之節御公家衆ニ付何之の
御法会ニ付今日ハ武家之御参詣無之相済候事ニ候
御導師御小性是ハ勤候十九日御本地堂曼陀羅供養
公家衆参向御名代如し今日は御門跡僧正院家
其外へ御布施之事ニ候 ○同十五日 東叡山
二百回御忌 勅会 御法事ニ付 紅葉山御
法会有之 ○今日御初日卯上刻 同十六日御中日
同十七日御満日同所今日辰中刻 紅葉山御宮へ 公方様
大納言様 御参詣之御事ニ付御法会大紋御対顔東叡山御神前
並四品以上位階之面々ハ是御廟 紅葉山御宮へ
拝礼 ○同日大ニ付 東叡山御宮へ四品以上並御譜代

衆并御三家方大名衆御参詣之節之諸大夫以上ハ下座
大諸侯御名代并御旗本以下御法会之御法事御参勤ニ付
七時過之内諸大夫以上ハ御本堂御宮の西ニ並居御法眼ハ
御装束ニて被為御礼事 同十九日 奈良御役人小諸人
出勤ニて拝礼相済候事 ○同日辰中刻御神忌御参
御法会御拝御手自御方 御経供養清楚を撫内
五月四日亥ノ日十六日 御神忌御法会済候 ○御能
東叡山公方様上人御法会御能拝見 諸大名中御家
御能御譜代大名衆并公方様 大納言様 大廣
間出御 尾張中納言殿 水戸宰相殿 水戸中将殿 御対
顔 並諸大夫以上御法会公方様上人御供養ニ付御
譜代大名衆并一同 御目見并ニて御能相済
御廊下御参会済御礼 紀伊殿ハ御能の内
御台様御能拝見并ニ付 ○六日は 宝蓮院
御門跡日光御門跡 輪王寺御門跡御対顔 僧正院

蹴鞠上覧

家宣公御忌明後中　御目見之上御能御好御座候
御参府之節御料理被下之　△十二日ハ二男両家御成日嫡子
御参府之節同日嫡子并兼而同様数諸御嫡子御家門以上御役人
松平大学頭、中務大輔、法印法眼の医師御目付衆御帰之節
中奥迄御出座　其外大廊下間出仕　御目見之上ニて御能相
済候而御料理被下之　○同七日御神忌ニ付蹴鞠
上覧ニ付日光門跡、尼門跡、御三家、水戸殿、水戸
中将殿、神田御殿大名万石以上の面々並諸寄
合衆、其以上の御役人、法印法眼の医師ともに登
城候ニ付、御朝卯半刻○今日五ッ時より御出座、日光
御門跡御三家御出仕の面々一同ニ御対顔、大納言様へ御目見之
御事ニ而　上覧之節へ御出座蹴鞠御覧、并宰相殿出座
蹴鞠を蹴る　上覧所ハ御譜代之間御書院孔雀之杉戸の
御方ニ而御座候而御着座之御後ニ囲む西の方
御襖障子御襖東の方御並居　大納言様御出座、御襖より取次

東の方御囲の外御屏風仕切御出座御門跡因幡守一位殿
御廊下ニ並び、御座之出院御縁孔雀之杉戸の内御三家方
西の方ニ松平加賀守前ニ間を御譜代之仕切ニて溜詰老中
御側衆列座　御襖の間上の方へ御持大名並御四品以上之
御座敷ニ楓の間入口御譜代之者仕切大廊下上の方御譜代
代大名下の方御取次大名之席溜之間東の方御並居之
御譜代之仕切ニ而御出座着座の間より南御縁
敷通りへ御挨拶ニ而御役人衣紋の間上の御役人列居
之方御杉縁へハ程々に絹を敷きたり　蹴鞠の場ハ御白書
院御庭前縁の庭先を立掛　上覧所を中央とし
御杉縁より左間を離れ方六間ニ掛たり　其方ハ桜井松
子西通り三間ニ葺縄相生松四本を植翔せ
装束ハ白絹布衣之装束ニ張切宰相一人紫宸殿の装束
ニ入て蹴鞠の式并ニ蹴鞠姓ニ宰相束帯金紋繻上
紋葉付緒立烏七人引分り○宰相ハ主家居或ハ古家或ハ

議長田中子爵一言申述ベント欲ス
依テ之ヲ許ス
○宮内大臣ノ勲功ニ対スル賞典ノ議案ヲ議ス
議長曰ク本案ハ既ニ第一読会ヲ経タリ依テ之ヲ第二読会ニ附セント欲ス
異議ナシ
議長曰ク然ラハ第二読会ニ附スルノ決定ヲ告ケ
入佛ス
書記官ヲシテ議案ヲ朗読セシム
書記官朗読ス
議長曰ク本案ニ対シ質問ノ通告アリ
質問ヲ許ス
○同上賞典授与ノ件
議長曰ク本案ニ対シ質問ノ通告アリ
質問ヲ許ス
○同上賞典授与ノ件
議長曰ク本案ニ対シ質問ノ通告アリ

登壇シ質問ノ趣旨ヲ陳述ス
議長曰ク質問ノ趣旨ハ了セリ
本院ハ今日ノ処ニテハ未タ之ヲ審査スルノ材料ヲ有セス
依テ暫ク之ヲ休会シ
小時ノ後再ヒ会議ヲ開カントス
休会ス
○同上賞典授与ノ件
議長曰ク本案ニ対シ質問ノ通告アリ
質問ヲ許ス
登壇シ質問ノ趣旨ヲ陳述ス
議長曰ク質問ノ趣旨ハ了セリ
本院ハ今日ノ処ニテハ未タ之ヲ審査スルノ材料ヲ有セス
依テ暫ク之ヲ休会シ
小時ノ後再ヒ会議ヲ開カントス
休会ス
○同上賞典授与ノ件
議長曰ク本案ニ対シ質問ノ通告アリ
質問ヲ許ス
登壇シ質問ノ趣旨ヲ陳述ス
議長曰ク質問ノ趣旨ハ了セリ
本院ハ今日ノ処ニテハ未タ之ヲ審査スルノ材料ヲ有セス
依テ暫ク之ヲ休会シ
小時ノ後再ヒ会議ヲ開カントス
休会ス
○同上賞典授与ノ件
議長曰ク本案ニ対シ質問ノ通告アリ
質問ヲ許ス
登壇シ質問ノ趣旨ヲ陳述ス
議長曰ク質問ノ趣旨ハ了セリ
本院ハ今日ノ処ニテハ未タ之ヲ審査スルノ材料ヲ有セス
依テ暫ク之ヲ休会シ
小時ノ後再ヒ会議ヲ開カントス
休会ス
○同上賞典授与ノ件
議長曰ク本案ニ対シ質問ノ通告アリ
質問ヲ許ス
登壇シ質問ノ趣旨ヲ陳述ス
議長曰ク質問ノ趣旨ハ了セリ
本院ハ今日ノ処ニテハ未タ之ヲ審査スルノ材料ヲ有セス
依テ暫ク之ヲ休会シ
小時ノ後再ヒ会議ヲ開カントス
休会ス

萬歳樂・皇鹿草急・五常樂・春楊柳・越天樂・
陪臚・二曲 御之郢曲なり 佳辰令月之文三度の附物五
七曲目長葉子小早之堂上地下猿を出し持明院より
退音樂人も退一日 御目見早多入御 御多書院 緑敷
小御所之右五人 御本殿上人 御顔物五之 時緒十
大納言様ゟ 堂物五 御大寺中納言 時緒十 大納言様ゟ
堂物五日 聖中納言 猿猴十巻 大納言様ゟ 堂物五四辻
中納言 時服六 大納言様ゟ 堂物三 緒小路中将 時緒六
大納言様ゟ 堂物三 持明院中将 御光中 御列座 敬
御殿 徳大寺日 聖四辻 之 御小殿之 三十十葉
の御料理 緒小路持明院 以前 萬之間 小之 御
手人 未も 樽之間 之二十五葉の御料理を 新下 碓少
登 場の面之 御席之御 草子を 御小 ○同十四日
御神忌 御霧樂 上 覧之 御 三家方同 廣
流滔 御講代 大名 三家 諸花 御 表 者 要

萬の間 殿 御 諸 右 父子左 三家 御 以上の御 諸人
堂 場 見物 御 御 ○今日 御 御 堂之間 日
光 御 御 御 敬 已上 刻 御 黒 出院 ゟ 以 方様 大納言様
出御 屋敷 水戸 殿 水戸中将 御 敬 御 日書院へ
御 御 樽の間 御 敬 飛 際子 三御 御 三家 廣流滔 諸
所 司代 御 講代 大名 日 嬪子 三家 大坂 御 代 雁の
間 諸 日 嬪子 無 飛 一日 御 目見早て 上 覧の 御 席へ
御 光 堂 霧樂 初ル 帝 盤之間 御 敬 飛 際へ 御 出し 酒の
方へ 敬之 以 方様 御 堂 大納言様 御 光を 設て 御 蒙
を 秘 帝 盤の 宮 東の方 御 屋風 仕切 御 之 御 三郷方 御 遠
見の 堂 次子 御 屋風 仕切 御 之 日 光 御 御 紀の 御 光とし
孔雀 松戸 御 之 御 三 家方 三 次 御 三 仕切 御 之
滔 諸 を 初一日 見物 所 御 樽 猿 三方 猩 之 紙を 敬 之 霧
樂場 御 雪 院 座中 御 堂 の中 吳 を 正面とし 三間の
霧 [illegible] 之 是 黒 漆 塗 朱 檀 于 紙 子 の 塗 を 也

所司代被仰付

御礼 御使[illegible]白銀[illegible] 御使松平能登守白銀[illegible] 一同六日

月廿六日婚姻御整 ○御母[illegible]の方[illegible]

女十月廿八日御誕生[illegible]十三年正月[illegible]逝去[illegible]

瑞雲院 ○同廿七日大久保加賀守 松平右京大夫

[illegible]所司代[illegible]代[illegible]

御中老[illegible]御免[illegible] 御代同七月

下向御内 山城大和 東海道 近江伊勢 美濃尾張 法水田[illegible]

[illegible]同八月十二日小笠原大膳大夫[illegible]逼塞

○老中[illegible]十五日[illegible]小笠原[illegible]

用[illegible]

[illegible]

逼塞十二月[illegible]御免 ○同十五日[illegible]御誕生 ○御母

[illegible]十二月[illegible]十四年十月十六日逝去[illegible]

信通院 ○同九月朔日於上野流鏑馬御

神事[illegible] 神君[illegible]小笠原[illegible]

於上野流鏑馬

御轉任 御兼任

同十月[illegible]日光山御宮[illegible]自[illegible]

同十七日仲姫君御誕生 御母[illegible]の方[illegible]

文化十三年正月廿八日 若宮御誕[illegible] ○同四月二日

第[illegible]九皇子 御母中宮[illegible] ○若宮[illegible]

公方様御轉任右大臣様御兼任[illegible]

当時[illegible]の西[illegible]

[illegible]

[illegible]大夫以上[illegible]法印

法眼[illegible] ○今巳上刻 公方様[illegible]

書院へ出御[illegible]

[illegible]紀伊中納言[illegible]

水戸中将[illegible]松平[illegible]

[illegible]勅使[illegible]大納言 山科[illegible]大納言[illegible]

[illegible] 公方様右大臣[illegible]御轉任 大納[illegible]

任[illegible] 公方様 大納言様へ[illegible] 禁裡 中[illegible]

御代官
金御蔵
正

天保三年七月廿五日 御先手 ……之儀 御一字を賜 新書と申 同四
年八月 御家名 ……子 様家老 …… 同十二年 御引替 ……人
○同廿日 松平 [illegible] 御帰郡 [illegible]
拝見 同廿五日 [illegible] 五万石 [illegible]
越後守 康孝 五万石 御加増 同十二月 十月七日 御代 松平
金御貸付 御役所 正 ○ 江戸 御代官 [illegible]
御用 [illegible] 御代官 [illegible] 一 [illegible]
方の [illegible] 大 御用 [illegible] 御貸付 御役所 [illegible]
[illegible] 上納 [illegible]
中之 [illegible]
西之 [illegible]
[illegible] 山 [illegible]
道 [illegible] ○ 同十二月廿七日 御書 [illegible]
[illegible] 御 [illegible] 同 [illegible]
拝領之

文政

元年 [illegible] 正月十一日 [illegible]

貳分判
通用

松平陸奥守 [illegible] 一 [illegible]
[illegible] 入 ○ 大 [illegible]
[illegible] 五月 [illegible] ○ 同 五月朔日 松平 [illegible]
[illegible] 同十二日 西洋 [illegible] 利亜 [illegible]
[illegible] 同十五日 [illegible]
七島 居生 ○ 御母 [illegible] 同三年十月廿一日 [illegible]
[illegible] 同十日 [illegible] ○
同 六月十日 新金 弐分判 通用 同 七月廿八日 [illegible]
代 [illegible] ○ 御母 [illegible] 方 十二月九日 [illegible]
十二月廿一日 [illegible] 同四年四月四日 [illegible]
[illegible] 酒井 [illegible]
同十二月十六日 [illegible] 同七年 十一月十二日 [illegible]
同十三年 九月十三日 山王 [illegible] 同十三年 十一
月十五日 [illegible] 天保三年八月 [illegible]
[illegible] 同十二月朔日 [illegible] 郎 御川 [illegible] 同六日 [illegible]

事ニ出登城 ○同八月廿日紀伊殿自史 赤坂銀燒失日昇者燒失ニ依金二百両錫
同九月四日より六日ニ至浴明院殿三十三回出忌 ○於
東叡山出御事出候ニ付御事ニ付候ニ付御事ニ付候ニ付錫 ○同十二
月十日一橋穆公家殿ニ表代表一具鮮鯛一桶ニ到遊
天政 二年正月十日伯昆八橋既来崎浦朝鮮商
客十二人漂着同十三日水戸殿ニ大日本史四十五冊を
以獻上同十四日永姫君生 ○出毎ないとの方壬四月十五日
出家出家ニ付同四年十一月廿五日出家ニ付四月廿
御座様出長同八年二月六日因幡中納言殿匡人出四男都之
御父一橋中将家禄人出長子ニ付 御出永姫君出縁組ニ付
御父 御出都之御父出御父名豊之御父と申同十年壬六月
廿五日出元緒御三位中将第民戸人家値人同十一年十一月廿八日
出結納于保二年十一月十五日出鈍祭初同四年九月十五日
山王出家西丸 大奥ニ出三家同六年十一月十五日一橋出家殿ニ
出川様出婚礼同八年五月廿七日家値人逝去ニ付永姫殿出家ニ付諸頃

浦賀奉行二人成

新金吹替

院様と云称ニ付 御也 ○同廿四日箱底家法御ニ付浦
賀奉行 是ニ付人 詠之 同二月十日 王上出庵ニ癒
○為出見ニ付事ニ付古法大猷大夫新庸家ニ付ニ付ニ付ニ付
順庭出御湯為出祝義ニ付家戸田中務大輔を家ニ付ニ付 ○
同五月新金小判吹替成就ニ付 御也同廿
九日直七郎君生 ○出母ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付
十五日出家出九月廿九日出家ニ付同四年十一月廿五日出家ニ付同五年四
月廿日 出家様出家同六月十五日尾張中納言殿ニ付ニ付ニ付
同九月新日田安中納言殿匡人息女豊姫出家ニ付縁組同十一月
廿三日市ヶ谷銀ニ付川様同六年正月十三日出稱ニ付同八年
三月十三日山王出家ニ付 御出ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付
八日出元緒出宮位渡三位中将出一字錫徳川新温人と申同
十年八月十五日尾張中納言齋親人出病ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付
出隠居ニ付 御出中将殿出家ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付
出家市ヶ谷邑形ニ川様同十一年十一月廿三日出婚礼豊姫出家

法張 紙五 両帰

今日より法廉中と称日十二年四月十八日新任宰相天保二年
青木市法廉中州使称水姫十二月新日新任中納言日三年三
月廿五日　公方様動て法三家日十二月廿五日法廉中豊姫
法方逝去謹探掃院及葬天徳寺日五年四月廿五日中納言
解法袖留日八年八月廿五日新任従二位大納言日十年二月
廿六日逝去謹源信院及葬尾張若君逝中寺○同
六月十六日東都及伊勢等諸国大地震日十六日
松平蔵十郎　町奉行附法用　遠十組改役　不正之所在之事
御義之所日九月廿八日五年米價下直打続
法義米之所の案別而難渡之儀格別の思ひ以
當冬法切米法御料在法金渡の分百俵之所
て法張紙直脱之金五両を編○三年諸国豊
饒米穀大之下直之して金壱両之米壱石七八斗を買ふ
右之武家一同之国宝新也○日十月廿四日徳之助
君生○法母初八年の方日三年正月十六日出生二月廿七日

法嘉勅日四年十一月廿五日法撃至日五年四月廿五日法嘉称
法表六月廿八日松平太郎将監武厚女一舞中長子新御出
武厚叙四位幸鑑之間席新命法嘉表書寄社事新出免
日九月十五日武厚先祖法紋自分紋元交相用徳之助新
之法紋平一重用与新命日十二月十五日徳之助引称已後
為法手当年々廩米五千俵也編与新命日廿七日之田
永坂下屋敷仮住居八引称日七年八月廿八日住居向出来
引称日十年二月十五日又々五千俵者増壱万俵也年々
新下与日十二年十二月廿六日大廣間席新　御能令紋
出鞍器長刀法紋日十二年十二月廿七日元結法字新下
新叙任従四位下侍従上総介新良朝臣と申之従二年
六月新日当年分法手当壱万五千俵也新下与新御渡
日五年五月十五日格別の　日三年以大廣下下の新屋子
新命日六年十二月五日新叙任従四位上小将日千
年六月廿六日帝謹大勅院及従四位上小将日光山大

新規
出来

兵庫頭中務卿宮○同十二月十五日越前
守親定 妻同次男… 加賀守設
親 從四位下 五百石 佐野豊前守
十五日一橋穆翁殿 七十二歳 古稀 文政 三年正月
親 … 加賀守
大輔安芸朝 從… 同二月廿八日服 中務
補御佐為 勞時勝六川 …○是より…積年
…
同五月十七日 … 皇子 … 理 … 上
…同六月十七日 … 鳴原 … 洪
水山岳崩山水溢出田畑押流溺死者 … 肥前
肥後 … 洪水 同七月十八日 新
… 同八月十三日 … 十月
… 代之 … 上 … 時
二錫 同九月廿四日 … 生○ …

中将 …

十二月九日 … 四年正月廿八日 … 五年十二月廿八日
… 同十二月廿八日 … 同七年十二月十五日
… 同八年七月廿八日
… 二月 … 九月四日 … 天保四年二月
… 同六年 … 七月十六日 … 同八
月廿八日 … 九月廿五日 … 同
十月廿八日 … 正四位下 …
… 同八年八月廿五日 … 同九年八月
廿八日 … 正二年○ 同十月
十七日 … 天文 … 文字書 …
積年 … 文全備 …
全 … 時 … 同十二月十六日 … 八歳
… 中 … 正 … 十人
… 文政
四年正月十七日 相 … 八 … 上同

[illegible]

二月江戸及諸国風邪流行 ○右馬中節仕の
米華陽を御山○四人賀宗の者ふ米穀を給 ○同上
月十五日薩摩国准后前関白政熙公江戸に来る
西邸天徳寺旅宿 ○同十八日御対顔同廿一日法
印参御饗応あり十五日大納言より太政大臣
並二条殿より御饗応御能あり御台様より
御使者白銀百枚御贈物あり御使者
御広敷中様御対顔同日御帰御饗応あり
隅田川木母寺御参詣御休息
水戸殿加賀侯仙台侯鹿児島へ御寄附あり四月四日完
発駕 ○同七月二十二日葉和入津御船乗舶遊覧
同八月四日家内迎江戸浅丹後丹後迎大慶成
了浅水同九月十九日松前君生○同母御入室の方
同十二年四月御産同五年正月廿九日御安産同十二年十二月
廿八日御婚姻同八年七月廿八日御逝去同十年

十二月御婚礼十年壬六月三日御降誕御没新皇子誕生
出同廿三日より御譲位御紋の紋を御用文武百官
御礼且紋章を袁台一通りの住之居皇太子の紋所御用
掛を勤むへき旨被仰出同日十二月廿七日御若君様
御縁組六年十二月廿五日叙任従四位上侍従御勝手御用
掛を勤め同八年八月廿五日格別の思召を以叙任中将
同日十二月十五日出羽守一万石御加増白銀御手当御用
小姓を勤め 文政五年正月廿五日辰中刻日暈再重西傍
召連出同日壬正月十六日子の刻十九日夜子
之東御誕生大将軍家五十余年同日二月朔日
公方様叙任右大臣叙従一位太政大臣将軍家同内大
臣叙正二位 御台様叙従二位 御簾中
将軍叙従三位 ○家斉公御治世公は七代太政大臣
国政を御世になし給ひ将軍に叙任せしむ○ 将軍家
将軍家の天下を治めて凡そ四十有余年にして将軍

何ぞも積年
節学小徳寄

文政

六年正月亦八日能五郎君生
○此毎朝にその方四月十八日此当五日十二日此実弟日
十月二日此警室日十月六月五日 御長様此書記 御長日
七月二日川越四郎松平大勢解典 新長女へ舞 長子記 御長
日十月新日神君日十月十日 引移天保六年十二月五日記
叙任後四位上侍従大殿大将 并若新長と申日八年
八月十五日 [illegible] 以記任少将 ○同三月新日
学張上鉱日亦四日 松平越中守 定永勢
州来名に領知 新命 ○但房総西長此 御鳴
此気先代より此 御鳴 新 [illegible] 節学時勝
十五歳之 ○松平下総守 武州忍に阿部族
九真民白川に領知 新命日四月亦二日 [illegible]
九此書院此書所 銀新屋高松平 和記
相当三人切数 以人為手頂自数 ○酒井
山城守組宿高之 [illegible] 御 [illegible]

新南漆
一朱金

間大京新切数 [illegible] 神尾五郎 [illegible] 深手頂俄
此吟味小 [illegible] 日十月九日 [illegible] 八百石所 [illegible]
嫡子 新屋住料 [illegible] 御 [illegible] 大京九百石
知新 [illegible] 戸田 [illegible] 新屋住料 [illegible] 御 [illegible]
三郎子 [illegible] 御 [illegible] 新 [illegible] 神尾五郎
百 [illegible] 御 [illegible] 九百石内 [illegible] 新
[illegible] 大 [illegible] 御 [illegible] 井山城守 [illegible]
[illegible] 大名 [illegible] 御 [illegible] 新 [illegible] 阿部四郎五郎 [illegible]
[illegible] 新 [illegible] 新 [illegible] 新 [illegible] 新 [illegible] ○
同十二月二日 [illegible] 星卯辰の間 [illegible] 芒角四五尺
[illegible] 猿 [illegible]

文政

七年正月十四日 汗山重次
郎辰世 [illegible] 五時 [illegible] 形 [illegible] 百五十巻
編集進 [illegible] 白銀十五枚 拝領 江戸 [illegible]
[illegible] 同二月亦日 新銀南漆 [illegible]
[illegible] 同七月二日 一朱金 通用 [illegible] 同八日 [illegible]

寛[illegible]八[illegible][illegible]所[illegible]民家損
耗一[illegible]一人[illegible]之 八月中旬連日降雨
[illegible]長山[illegible]總州辺洪水 ○十五日[illegible]て
強風[illegible]手の如き[illegible]一丈[illegible]南へ空中を飛行
雲間[illegible]青山麻布辺へ白毛降る ○同
壬八月十九日[illegible]左内 ○天文方高橋作左衛門
富士[illegible]魯西亜[illegible]編輯[illegible]上る 銀五
枚を賜ふ ○同十月十五日[illegible]年[illegible]芝山[illegible]
出[illegible]中[illegible]水[illegible]川[illegible]年[illegible]
上る 文政八年二月九日同[illegible]生 ○[illegible]
[illegible]五月[illegible]七月中[illegible]十二月十三[illegible]
[illegible]十年六月[illegible]松平[illegible]
十二月[illegible]十二年
十二月[illegible]同[illegible]年[illegible]七日
川[illegible]天保二年十二月十二日[illegible]女[illegible]之年

壬十二月十八日任[illegible] 同八年二月九日叙任從四位上
侍従[illegible] 同八月廿五日[illegible]之内
叙任加將 ○同四月廿一日林肥後守[illegible]英之
[illegible]加增一万石[illegible]補
[illegible]御用[illegible]同[illegible]四日
林[illegible]肥後守[illegible]同八月中旬
連日大雨東海道諸國洪水[illegible]止 同廿一日
女御[illegible]入内 同十月琉球國大飢饉
人多餓死 文政九年正月朔日[illegible]
浦[illegible]漂流 ○[illegible]
十二月[illegible]漂流[illegible]
○廿三日江戸[illegible]同四月上[illegible]
[illegible]同五月江戸中[illegible]
同十八日[illegible]之[illegible]
[illegible]八丈[illegible]女[illegible]切害

○評定所ニ而ハ右之味ニ而取計候ニ付、右之通ニ而ハ不都合ニ付、改而
當年ニ至リ候而ハ、又候御出勤ニ相成候ニ付、○同二月晦日
松平鎮静儀、御免之上、御勘定吟味役被仰付候。○同三月晦日
御普請奉行被仰付候。○同四月朔日
大御所様御薨去ニ付、御鳴物停止ニ相成候。○同四月十五日
公方様本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿七日
御用御免ニ付、御目見以上之面々、御白書院ニ而御暇被下候。○同廿八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同晦日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同五月朔日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十一日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿一日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同晦日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同六月朔日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十一日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿一日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同晦日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同七月朔日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十一日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿一日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同晦日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同八月朔日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十一日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿一日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同晦日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同九月朔日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十一日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿一日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同晦日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十月朔日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十一日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿一日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同晦日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十一月朔日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十一日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿一日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同晦日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十二月朔日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十一日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同十九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿一日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿二日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿三日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿四日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿五日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿六日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿七日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿八日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同廿九日
御本葬ニ付、増上寺へ御参詣。○同晦日

同十月二日蒙昭君生○此毎年の方曰十一年二月十三日
此年出此異物曰十二年十月十五日 此暫至天保二年三月十八日
御庭移此者云 御也曰九月十六日因是大宇松平城之助人
孫組所 御也曰此七日起也仕曰十月十日誰之助 之縁此一字無欠
文敏任從四位下侍從因播磨所刊報告と申曰四年十月廿八日
此紙解 文政 十一年二月廿四日芝増上寺方丈八目
火燒失曰五月廿三日頭吹上此庵此華麗燒失人
同七月東海道洪水曰五日松平出羽守家書新
刻 藏板延喜式 至新曰八月廿日東叡山濤雲院
此位所 燒失曰九月西至崩洪水中至此身不作也
崎者洪水曰十月四日増上寺増地 此城此門等東西七十八間
一尺余南北二十五間余田辺之城
同十二日越後至此是辺大地震 文政 十二年正月
肥後熊本藤士敵 ニテキ 討曰三月廿日江戸大火○神田
佐倉町丁河岸より出生烈風強四方之都通所崩日本橋辺一面
南ハ新橋ヨリ限リ東ハ蔵地鎮施洲八十地霊岸嶋之至西ハ此地

鎮之至南北一里余二拾余丁大名四十七氏此旗本此家人凡九百余新
町家十万五千新余古新子六百三十余橋五十ケ所 燒死人子九百人
余大之事此数少長九ケ所 崩遠此門外 東橋此門外 神田橋此門外
数家長橋此門外江戸橋 廣嶋 東至橋 廣嶋 廣嶋 橋此門外
築地門 詰家八町堀松屋丁河岸無 楽此此子尚 記下至今
至今所家ヶ 逢尚送る○同十月 弥太郎切支丹家の者
三人 磔之 行る曰此七日増上寺 博中 不熟○方丈隠居
至今 僧後此仕至 再至三月 方丈再住 天保 元年
文政十三年十二月十八日改元 正月十四日此太郎橋此橋内町人 神
の老年 此曰二月町方火の元の 捷出出曰三月
廿三日 吹上十三間此門 前旋芝間 上道 松撰人
至之○此時阿部松之 各帝 分 稽書 幸 鄕の 松子 旦 [illegible]
此 舉之 去 [illegible] 子 [illegible] 此 [illegible] ○同廿六日 去成年
阿蒙 俺人 兼 廚中 高 橋 作 [illegible] 七生 [illegible] 頌 [illegible]
葉人 [illegible] 道 義 [illegible] 此 論義 ○此一 [illegible] 七 [illegible]

[illegible]日景。

人[illegible] ○同十月廿九日越後[illegible]

[illegible] 天保 二年 正月廿日より廿二日迄[illegible]

[illegible]院[illegible]出[illegible] 同二年より

大坂川澤天保山築 同四月八丈島飢饉 同四日

[illegible]道[illegible]出船 ○去年七月[illegible]中[illegible]

[illegible]

[illegible]女[illegible]年

[illegible]

[illegible]

[illegible]間[illegible]僕[illegible] ○同五月廿七日

[illegible] ○[illegible] ○同

七月十八日[illegible]押上[illegible]数

生[illegible] ○[illegible]年[illegible]人

[illegible]女[illegible]男中[illegible]

○同[illegible]江川大[illegible]代[illegible] ○[illegible]

[illegible]男女[illegible]人[illegible] ○

同八月十[illegible]酒井[illegible] 同

十五日[illegible]同十月九日[illegible]

[illegible]水[illegible] 同廿

九日[illegible]一万石[illegible] ○[illegible]五年

[illegible]

[illegible]

[illegible] 天保 三年 正月[illegible]

[illegible]同二月 四日[illegible]

在方[illegible]水[illegible]の[illegible]

十[illegible] ○[illegible]

[illegible]

[illegible] ○同 三月五日[illegible]

[illegible]大[illegible]言[illegible]正二位 同五年七月

水戸光圀卿従二位御贈位 同七月十八日薨
将之傳宵御離 御小納戸御役御免 同八月、
十九日 右同 大夫御離 ○ 家斉小從 [illegible] 大目付
[illegible] 入 [illegible] 之子 [illegible] 寄合 [illegible]
[illegible] 上 [illegible] 門 ○ 此頃 [illegible] 御持 [illegible] 田邑
今度御離 ○ 此頃中 柳生 [illegible] 御役 十二月 [illegible] 松
[illegible] 御役 [illegible] 二月 [illegible] 十里四方 [illegible] 松平 [illegible] 家
[illegible] 隆 [illegible] 之 [illegible] ○ 同 九日 [illegible]
勘定 山田 [illegible] 助 水戸 [illegible] 家来 上 [illegible]
[illegible] 又 [illegible] ○ 水戸 [illegible] 家来 [illegible]
家来 二人 [illegible] 助 御 [illegible] 中 自 [illegible] 八月 [illegible]
山田 家来 [illegible] ○ 同 十月 二日 [illegible]
今通用 [illegible] 同 十一月 [illegible] 御 [illegible] 調
[illegible] 御 [illegible] 使 [illegible] 御 [illegible] 同 十二月 [illegible]
[illegible] 御 [illegible] 五十家

天保 四年

二月六日 京都より [illegible] 院殿 勅額 [illegible] 同 [illegible]
[illegible] 御 [illegible] 此頃 [illegible] 云 文章 [illegible] ○ [illegible]
[illegible] 田 [illegible] 文章 [illegible]
[illegible] 文 [illegible] ○ 同 [illegible] 書 [illegible] 上 ○ [illegible]
[illegible] 三十八冊 [illegible] 二 [illegible] ○ 同 [illegible]
[illegible] 井 [illegible] 上 [illegible] 御 [illegible] 此 [illegible]
[illegible] 田 [illegible] 同 八月 [illegible] 日 [illegible]
[illegible] 同 十一月 法華宗 長 [illegible] 山 [illegible] 寺 [illegible] 山 [illegible]
[illegible] 御 [illegible] 田 [illegible] 江戸 [illegible]
[illegible] 田 [illegible] 御 [illegible] 江戸 [illegible]
[illegible] 御 [illegible] ○ [illegible] 金銀 [illegible]
[illegible] 銀 [illegible]

天保 五年

二月七日 江戸大火 ○ [illegible] 田 [illegible] 町 [illegible] 大 柳原 [illegible]
[illegible] 永代 [illegible] 八丁 [illegible]
一四 [illegible] ○ 同 十日 大火 [illegible] ○ 松平 [illegible] 御 [illegible]

朝鮮王城焼失

[illegible]

天保

[illegible]

五分一拝借

百文銭

[illegible]

仙石一件

右府ト之一向ニ無念御紛擾被成候人足御の由右金子ハ色紙ニ出金。
我ら勝手の為ニ差遣し大工手間金我等出来之人数ニ可子孫
〇同十二月廿八日於長崎唐人ゟ一等ニ御候事出国
於戸川播磨守承載 〇此後同年四人
〇前之右在法申し候右家ニ更物宝出索ヲ与ル法ニ候岸
右婦致 使用人 〇 同十二月九日仙石道之助申出候
〇 右方元家来ニ而出奔致し神尾様手前ニ而我等右ニ而
右之外播磨之筆頭井伊掃部頭 右播し御知候の
川合右之之寺社奉行方ニ而吟味し候甚方家政ニ
外ニ而家老共筆頭右伊之申渡候所被申出候筆
家老仙石左京ニ而筆方家政を乱し我ら右の
奏者番越前守ニ而上屋の此者ニ而隠居并其之人
之家来右方ニ而謹慎の処て吟味為諸役共名知の仕置申付
且又家老左京之今日出之右種子有之事ニ而御業
及右様の事ニ而仕置被仰付事ニ而の筆ハ可申ニ御筆

御知右家老之元乱を置き仍ても差之治ニ相済被
思召候右名跡之儀作事奉行の筆頭の格別の思
召を以之方石高下知之上仕置仰付被作候
二万八千八百石東ニ而上家を仙石左京獄門家臣之助
右同様ニ而存之筆ニ追放被仰付松平周防守様
之被仰付共諸事仕置仰付候之
会所仕法改正 〇 老中七ツ時寺社奉行所柳原之手前寺社
御家老方被仰付候之出雲守老中五ツ時御吟味中川土佐守
沙汰御勘定奉行右方御小納戸右方御役替之 〇
同三月十二日御勘定 〇 御目付松平右之助御上京
林肥後守上御用番老中松平周防守 〇 同四月十七日松
平大隅守上納金御方面御用番中御番後 同七月
之方濃州秋元但馬守承之 〇 御先手加々爪甲斐守後
当番之上戸田采女正殿御座之吟味中申渡
又者御役三人之外右之被仰付預申候 〇
同

九月四日掃部頭於老中列座和泉守上意
之趣演達○出羽守[illegible]御意之[illegible]
[illegible]出羽守[illegible]（右四月二日[illegible]）
[illegible]御隠居[illegible]
[illegible]将軍宣下の[illegible]願[illegible]内存[illegible]
[illegible]被下[illegible]御意之[illegible]
大納言様御隠居御譲被仰出 天保 八年二月十九日
大坂大火○町奉行所与力大塩平八郎父
隠居平八郎与力同心并町人等乱妨大坂町々火を放
様大筒鉄砲打放候得共平八郎在所々へ逃去
会一万八千九百五十軒余町数百九町余焼失
家の老人を[illegible]○御番組同心平山助次郎自訴ニ而
其後江戸表へ差下候[illegible]大塩父子
三月中自殺の処[illegible]四月[illegible]
[illegible]七月[illegible]

の老江戸表へ差下候九月十八日一件落着
○同四月二日 大御所様西丸江御移徙
○酒井雅楽頭代[illegible]之間[illegible]
[illegible]上[illegible]人[illegible]御同道○同
十二月御代替御祝儀[illegible]
[illegible]進○[illegible]内[illegible]
[illegible]大納言様へ○出羽守[illegible]代金
[illegible]百両○[illegible]
岡部[illegible]○出羽守延寿国泰代金七千両紀伊大納言
殿出羽守[illegible]代金七千両尾張中納言殿[illegible]国信
代金七千両水戸宰相殿出羽守[illegible]代金五千両紀伊
大納言殿出羽守三原正家代金五千両尾張大納言殿出羽守
近衛家代金五十両徳川[illegible]代[illegible]但一種[illegible]出使
松平伯耆守○出羽守大和則長代金五十両松平加賀守出羽守
[illegible]兼代金二千両松平三河守出羽守[illegible]代金

代金三千枚　松平播磨守　御刀　備前吉光　代金三千枚　松平
上総介　御刀　大和包泰　代金三千枚　松平右京大夫　御刀
備前則光　代金三千枚　酒井雅楽頭　御刀　備前長光　代金
三十枚　松平紀伊守　御刀　備前景光　代金三千枚　松平周防守
御刀　備前則光　代金三千枚　松平安藝守　御刀　大和包則　代金三千枚
松平讃岐守　御刀　備前長光　代金三千枚　松平大和守　御刀
大和包吉　代金三千枚　松平出羽守　御刀　長光　國廣　代金五十枚
松平大和守　御刀　真守　代金五十枚　松平隠岐守　御刀　貞宗
三行　代金十五枚　前田飛騨守　上使　酒井紀伊守　大目付　之述
御臺　御奉書　御盃　日光准后　條氏　御肴　日野新宰相　一種
一　御使　松平伊豆守　掃部頭　老中　御書　中務大輔　差出
御盃　御奉書　松平伊豆守　掃部頭　西丸　於　表　御目見　被下候
御婚礼　御用　御節　時服　拝領　之
▲
御臺所　松平薩摩守重豪卿之女　○御母　市田氏
安永二年六月十八日　鹿児島　御誕生　御名篤姫　同五年七月

十九日　御婚姻　家治公与相済　御名且継御継
御免　天明元年辛丑五月十九日　薩摩守方ゟ　一橋館へ
移　同七月　於茂　御入　御部屋　同日　御入　御丸　同十一年
御　御縁女様　同六年十二月　御部屋　御引移　同七
年十二月十五日　御播大臣　経熈公　御女　御茂　子女
様　同八年四月十八日　御縁組　被為済　寛政元年二月四日
御婚禮　相済　同日より　御臺様と申　同九年二月
従三位　文政五年　二月六日　従二位　天保八年四月
西丸へ　御移徙　大御臺様と申

東京都立中央図書館印

右藤平年表爲二冊以藏書

長曇弘郎平信近

五月十五日 傳細留 享保十二年十二月十五日 [illegible]

為親 享保十五年 五月十五日